

# 市民の意見

発行：市民の意見30の会・東京

NO.111  
2008/12/1



発行者の住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-29-12-305 TEL:03-3423-0185 FAX:03-3402-3218

郵便振替：00120-9-359506 eメール：iken30@mwb.biglobe.ne.jp

\* 隔月刊/購読料・送料とも年2500円、一部400円、65歳以上および身障者の方は年2000円 グリーン会員の方は年1000円

## 曾宮 俊一「風景」

(無言館所蔵 作者の経歴は3ページ)



(窪島誠一郎『無言館を訪ねて 戦没画学生「祈りの絵」第Ⅱ集』講談社刊より)

## 「市民の意見」111号 目次

### ● 新しい状況と日本の市民運動

米オバマ新政権をどう見るか

ダグラス・ラミス

軍事予算を聖域にするな

天野恵一

### ● 特集 歴史観共有への試み

難産だった日韓歴史教材

坂井俊樹

日中共同研究『満州国とは何だったのか』

高橋武智

独仏共通教科書が生まれるまで

永井潤子

### ● 憲法9条と非武装

非武装27カ国を訪ねて

(聞き書き) 前田 朗

### ● 私の戦争体験(投稿)

孫たちへの証言

中西仁郎

### ● 運動の現場から

原子力空母配備にあきらめない市民

新倉裕史

700回目が近づくちようちんデモ

谷島光治

参加したきつかけと抱負

意見広告運動事務局

### ● 文化

詩「富士」

金子光晴/英訳・アーサー・ビナード

金子光晴「富士」について

アーサー・ビナード

「当たり前」の深さ 連載エッセイ⑧

鈴木一誌

本の紹介『まるで原発などないかのように』阿部めぐみ

映画紹介「チエチェンへ アレクサンドラの旅」

本野義雄

マンガ「ふしぎのくにのありか」⑩

まつだたえこ

### ● その他

▽読者のおたより 32

▽インフォメーション

▽事務局だより 吉川勇一 35

▽編集後記/会計報告

◆本号のすべてのカット 吉岡セイ

◆題字 安西賢誠

### ☆ 12月の読者懇談会のご案内☆

講師：前田朗さん 「軍隊を持たない27カ国を訪ねて」

日時：2008年12月16日(火)午後6時半 参加費500円/場所：たんぼぼ舎(JR水道橋駅5分 ダイナミックビル5F)

電話：03-3238-9035 地図ウェブ：<http://www/jcan.net/tanpoposya/info/map.htm> (地図はP20参照)

## 富士

金子光晴

重箱のやうに  
狭つくるしいこの日本。

すみからすみまでみみつちく  
俺達は数へあげられてゐるのだ。

そして、失礼千万にも  
俺達を召集しやがるんだ。

戸籍簿よ。早く焼けてしまへ。  
誰も。俺の息子をおぼえてるな。

息子よ。  
この手のひらにもみこまれてゐろ。  
帽子のうらへ一時、消えてゐろ。

父と母とは、裾野の宿で  
一晩ぢゆう、そのことを話した。

裾野の枯林をぬらして  
小枝をピシピシ折るやうな音を立てて  
夜どほし、雨がふつてゐた。

息子よ。ずぶぬれになつたお前が  
重たい銃を曳きずりながら、喘ぎながら  
自失したやうにあるいてゐる。それはどこだ？

どこだかわからない。が、そのお前を  
父と母とがあてどなくさがしに出る  
そんな夢ばかりのいやな一夜が  
長い、不安な夜がやつと明ける。

雨はやんでゐる。  
息子のみないうつろな空に  
なんだ。糞面白くもない  
あらひざらした浴衣のやうな  
富士。

(英訳：アーサー・ビナード)

## Mount Fuji

Kaneko Mitsuharu

This archipelago is as cramped  
as a set of lacquer-ware lunchboxes.

Japan, every corner controlled by the greedy—  
They've got us all counted and tagged.

What's more, they have the gall  
to call us up for military service.

Hey, you, Family Registry, do us a favor,  
go torch yourself. And everyone who knows me,  
you can all just forget my son was ever born.

Son, shrink down,  
hide between the palms of these hands I wring.  
Or better yet, lie low inside my hat for a while.

At an inn near the mountain's foot, we,  
father and mother, spent most of the night  
trying to figure out what to do.

Rain poured down incessantly, soaking the hills,  
hitting the dead trees with crackling splashes,  
as if breaking off their slender limbs.

Son, you're drenched,  
lugging a heavy gun, out of breath, lost,  
trudging in a daze. Where are you?

Not one knows, but your mother and father  
set out to find you, without a clue—  
That's what we dreamed the short time we slept  
this long, anxious night. By daybreak

the rain has let up. Overhead  
the sky is empty, our son nowhere in sight.  
This is shit, and on top of it all,  
there's Fuji, looking like a faded  
old bathrobe.

(translated by Arthur Binard)

## ■金子光晴「富士」について

アーサー・ビナード

2005年のノーベル文学賞に輝いたハロルド・ピンターは、劇作家として有名だが、詩人でもある。その詩作品はウィットに富み、ときには辛辣だ。この前、湾岸戦争を題材にした“American Football(A Reflection upon the Gulf War)”という一篇に、アンソロジー集の中で出会い、意表をつかれて日本語に翻訳しようと取りかかってみた。が、うまくいかなかった。原因は“shit”だ。

英語で、敵軍を銃だのミサイルだのでやっつけることを“blow the shit out of them”という。ピンターはその表現を使い、変化させながら執拗なまでに繰り返し、それによって“shit”はただの比喩としてではなく、だんだんと具体性を帯び、戦争の汚らしさ、その下品さを読者に伝える。

ぼくは日本語でも同様の効果を生み出そうと試みて、行き詰まった。もしかしたら「糞」は詩に向かない言葉なのかと一瞬思い、次の瞬間に金子光晴の「富士」が頭に浮かんだ。「なんだ。糞面白くもない／あらひざらした浴衣のやうな／富士。」——この作品では「糞」が実に効果的に使われ、作者は富士山に向かって大胆に悪態をつく。日本が「すみからすみまでみみつちく」「狭つくるしい」軍国と化してしまったのは、もちろん、富士山のせいではないが。

金子光晴とその妻、作家の森三千代は、なんとしても息子を軍隊に取られまいと、さまざまに苦心して、医師に診断書を一度ならず書いてもらった。「それは、ただ、肉親愛のエゴイズムとだけは言えない僕らの気持ちだった。戦争に対して、もう一銭も支払いたくないというのが本心」と戦後、光晴は振り返った。

「富士」の糞度胸を少し借りて、ぼくは今、ピンターの詩の和訳に再挑戦している。

(あーさー・びなーど、詩人、エッセイスト。)

【みすず書房刊アーサー・ビナード『日本の名詩、英語でおどる』より転載】

## ■作者について

かねこ・みつはる (1895～1975)

愛知県海東郡に生まれる。本名大鹿安和。

2歳のとき金子家の養子となり、養父の転勤で京都、東京に移り住む。早稲田大学英文科予科、東京美術学校日本画科、慶応大学文学部予科などに学び、すべて中退。

1919年、美術商鈴木幸次郎に連れられて渡欧、ロンドン、ブリュッセル、パリに滞在。23年詩集『こがね虫』で注目を集める。24年、森三千代と結婚、息子乾をもうけるが、28年、息子を実家に預け2人で東南アジアからヨーロッパにかけて4年間の旅に出る。帰国後、国家主義体制と日本人の精神構造を鋭く批判した詩集『鮫』を発表。戦時中は疎開先の山中湖畔などでひそかに戦争を批判する詩を書き溜め、戦後『落下傘』『蛾』『人間の悲劇』などの詩集として発表した。

▼ 表紙絵の作者 ▲



曾宮 俊一

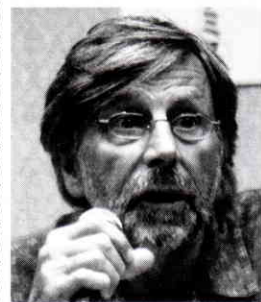
(そみや・としいち)

1921年(大正10年)3月21日、東京・淀橋下落合に生まれる。父は画家・一念。写生する父に連れられ、幼少期より絵に親しむ。1943年(昭和18年)11月、東京美術学校建築科を繰り上げ卒業。在学中に、父の希望もあつて建築設計を学ぶかたわら油彩画を描く。卒業後出征、北海道、名古屋連隊を経て騎砲兵第4連隊に配属。北支派遣成第五三五六部隊所属。1945年(昭和20年)3月25日、湖北省光化县老河口で戦死。享年24歳。

# 米国オバマ新政権を

## どう見るか

ダグラス・ラミス



### ①オバマと米国の白人たち

ちょうど2年前、オバマ人気が始まったばかりの頃、『ザ・ネーション』誌に載ったあるアフリカ系イギリス人の面白い記事を読んだ。彼は数年前にサウス・カロライナ州で、うっかりして白人ばかりの教会に足を踏み入れてしまった経験を書いていた。

「1時間以上も座っている間に、私自身が感じている不安より私の周りの礼拝者たちのそのの方が大きいことが、次第にわかってきた。私への凝視は、敵意ではなく、彼らが本当に混乱していることを示していた。私に据えられた視線は、必死に答えを求めていた。『お前はここで何をしようとしているんだ？世の中にはルールというものがあるだろう。われわれはお前たちの教会に行かないし、お前たちもわれわれの教会には来ない。なのに、なぜこんなことをする？何が望みなんだ？』礼拝が終わるとすぐ、彼は立ち去ろうとし

た。すると一人の女性が彼の肩に手をやって、歓迎の意を表した。彼が礼を言うとして、彼女はそのアクセントをとらえて言った。

「貴方はこの土地の方じゃないわね？」

「ええ。イギリスから来ました」  
その言葉は、私の周りにできた小さな人垣の中で繰り返された。「イギリスから来たんだって」『英国人なのよ』私に握手し、挨拶しようとして押しかける人びとが、そうつぶやくのが聞こえた。私は英国人、彼らの問題になる存在ではないのだ」。

筆者のゲイリー・ヤンジは、米国の白人の間におけるバラク・オバマの途方もない人気を説明するために、こうした経験を語っている。もちろん、とヤンジは言う、オバマが好かれるには多くのものもな理由がある。「彼は上院で最も頭がよく、実務にだけ、ハンサムで、カリスマ的な男だ」。だが、無視してはならないほか

の理由もある。「オバマは白人たちに恐怖を感じさせない黒人だ」。彼は背中に、アメリカの奴隷制400年の歴史の恐ろしい重荷を背負ってはいない。彼はその怒りを背負っていない。

彼の祖先は、鎖に繋がれて米大陸に連れて来られたものではなかった。彼の父親は、自分の意志でケニアから来たのだ。そして米国の白人は、私も含めて、その違いを感じる事ができる。顔の違いで区別でき、言葉づかいで聞き分けられるのである。オバマは、米国の黒人教会で発言したリズム、マーティン・ルーサー・キング、マルコム・X、ジェシー・ジャクスン、ジェレミア・ライトのリズムではしゃべらない。そして最も重要なのは——この数カ月の間繰り返して試されたのだが——彼は白人の評論家たちにどんなに弄(なぶ)られても、決して怒らないことである。

米国の白人は、いつの日か彼らに向かって、最終的かつ決定的に「貴方たちは赦された」と宣言できるだけの権威を備えた黒人指導者が現れることを、無意識のうちに切望している。そして白人たちのメディアはバラク・オバマをそのような指導者に仕立てようとしているのだ。彼らは繰り返して書く。オバマが大統領になれば、あるいは大統領候補になるだけでも、米国の人種問題は「超越される」、と。彼らが怒れる黒人の主流に属するオバマの妻ミシェルや彼



新ローマ オバマ帝登場？

の導師であるライト師のことをあれほど気にかけるのも、同じ理由からである。しかしオバマは違う。オバマとなら、白人たちは安心してやって行けるのだ。

だが、大きな疑問が持ち上がる。ケニアからやって来た父親を持つ男が、白人のアメリカに赦免を告げる権威を持ち得るだろうか？（いうまでもなく、米国には時代遅れの人種差別主義者の白人が依然として数多く存在し、アフリカから来た黒人にも、米国の奴隷制度の伝統の中で生まれた黒人にも同様の疑いの眼を向けていることはわかっている。こうしたグループが、選挙でオバマ打倒を叫んで出て来ることも予想される）。

## ②オバマと米国の黒人たち

世論調査は、黒人の94%がオバマに投票すると予測している。もちろん、これは彼が白人から得るよりかなり高い得票率だ。

だが同時に黒人社会では、白人の支持者たちの間にあるのと同様なオバマへの熱狂が見られないのも事実である。この矛盾は、どう説明すればよいのか？

一方、米国の黒人社会はつねに、圧倒的に民主党を支持している事実を理解することは重要である。（公民権法案を成立させたのは民主党だった。その経済政策が——少なくともいくらかは——貧困層を潤しているのも、民主党である）。2000年、黒人有権者の90%がアル・ゴアに投票した。2004年には88%がジョン・ケリーを支持した。だからオバマ支持が94%になっても、大きな変化とは言えない。それにいうまでもなく、黒人大統領の選出が黒人社会の種々の階層秩序に変化をもたらし、黒人民衆にかつて持ち得なかった機会を与えることを信じ、あるいは希望する黒人たちが数多く存在する。こうした観点からすれば、オバマは破ることが不可能に見えた障壁を突破しつつあるのだ。「このようなことが私の存命中に起こるとは思いもよらなかった」という言葉が、繰り返して語られた。ある老女は言った、「いまや私たちは、ホワイトハウスではなく、ブラックハウスを持つことになる」。私は黒人社会の中で、オバマがやっていることに熱狂している人

の多くは、まずオバマという人物に熱狂しているのではないかと思う。つまるところ、彼は彼らの文化の中で成長したのではなく、彼らの言語をしゃべるわけでもない。大統領として彼が彼らの利益を代表するかどうかは、未知数である。

実際、私の米国における左翼の友人の中でオバマを最も嫌っているのは、サウス・カロライナ州でジェシー・ジャクソンの大統領キャンペーンのために働いているケヴィン・アレクサンダー・グレイという黒人男性だ。ケヴィンは、オバマが白人票を獲得するために黒人社会を利用していると考えている。彼は数カ月前オバマがある黒人教会で行なった演説にひどく腹を立てた。オバマは黒人聴衆に対して、彼らはもっと働くべきであり、もっと家族の世話をし、子どもへの教育にもっと時間をかけるべきだ、などと説教した。そのさい彼は、歴史的要因——奴隷制度、職業差別、貧困といった黒人の家族システムを破壊してきた事柄については、一言も触れなかった。いったい彼は、とケヴィンは問う、誰に向かつて発言していたのか？ 黒人教会で話していたにも拘らず、明らかに彼は外にいる白人有権者に対して、彼らが聞きたがっている言葉を語っていた。つまり、黒人家庭がこんな問題が多いのは、貴方たちのせいではない、彼ら自身のせいなのだ、と。

黒人社会がこの男を愛さない理由を挙げ

ることは容易だ。しかしながら、彼が大統領に選出されれば、米国社会内部の人種的諸関係に多大な望ましい変化をもたらされるだろうことも確実である。米国の黒人社会には彼らの利益に従って投票するという強い伝統があり、その大多数は、オバマ選出を彼らの利益と見なしているのである。

### ③ オバマと帝国

私がバラク・オバマに焦点をしばって論じているのは、来年1月以降、世界がつきあわなければならぬ米国大統領に彼が就任すると思うからだ。マケインとの相違点、経済、環境、妊娠中絶、最高裁、拷問、健康保険等についてオバマが提議した諸政策のすべてを要約するのは避けよう。それは国内問題であり、新聞を読めば書いてある。だがここでは、「帝国」における彼の位置について触れておきたい。というのも、この点こそは日本の読者に直接影響を与える政策であり、しかもオバマが最も誤解されている点ではないかと懸念するからだ。オバマが最初からイラク侵攻に反対していたこと、いまでは米軍のイラク撤退を主張していることはよく知られている。その理由は？ 彼は繰り返し述べている。それは「対テロ戦争」での米国を弱める、とりわけ最も重要な戦場であるアフガニスタンでの米国を弱めるからである。それだけではない、それは全世界で米国の立場を弱

める。マケインとの最初の討論で、彼は中国がラテンアメリカ、アジア、アフリカで積極的に進出していると主張、さらにこう述べた。「中国の存在が目立つのは、われわれがイラクにかまけてきたゆえに不在になったことと見合っている。われわれは、単眼レンズを通して物事を見て来たために、世界に力を投入する能力を弱めてしまったのだ。」

バラク・オバマは、米世界帝国の反対者ではない。彼は、その運営方法の批判者に過ぎない。彼の主張は、自分ならもつとまよくやる、というものだ。

ジョージ・ブッシュは大統領就任中、米国外交政策の、ひいては全世界の根本的な変革をもたらした。彼は「テロリズム」に対して（法の強制キャンペーンの先頭に立つのではなく）戦争をしかける、と宣言した。多くの人が指摘したように、1国あるいは特定の組織に対する戦争ではなく、ある戦術に対する戦争を開始したことによって、彼は戦争というものの性格を変え、どうすれば終りにできるのか誰も知らない戦争を始めたのである。ブッシュはまた、米国が長きにわたって採用してきた封じ込め政策を放棄し、以後米国は、（他のいかなる国も持つことのない）先制的侵入を行使する権利を持つ、と公言した。彼はいまや米国は、武力を行使して他国の政権を取り替える権利、他国の人民を逮捕・監禁する権利

を有する、とも発表した。こうしたことは、帝国の政治にほかならない。

オバマはこうした一連の政策の、どのひとつも放棄していない。彼は、イラク戦争での大きな問題はそれが対テロ戦争への注意をそらすことだ、と言う。彼は、もし米軍がパキスタンのどこにアルカイダが隠れているかの情報を掴んだなら、パキスタン政府に知らせることなく直ちに攻撃し、「ビン・ラディンを捕らえ、殺すべきだ」と言った（そう、彼は実際そう言ったのだ。「彼を捕らえて裁判にかけるべきだ」ではなく、「彼を殺すべきだ」と）。イランとの戦争開始についても、マケインよりオバマの方がやりかねないのではないかと心配する観測筋もいる。これは中東だけの問題ではない。というのも、先に引用した声明の中で、オバマは「世界中に力を投入する能力を米国は維持すべきだ」と言っているからである。平たく言えば、米国は世界規模の帝国を維持しなければならぬ、ということだ。そしてこのことは、彼の側近たちが述べてきたように、オバマ政権の下でも日本および沖縄における米軍の存在を少なくとも現状維持、おそらくは強化するのが米国の方針となることを意味するであろう。

世論調査（もちろん、間違えることもあるが）から判断すると、オバマは大統領選挙で地滑りの勝利を収める勢いようだ。世論調

査はまた、民主党が上下両院で大多数を獲得するだろうと予測している（10月末現在）。

同時に、BBCが世界22カ国で行なった調査によると、オバマは4対1の割合で支持されている。こうしたことから見ると、選挙後の彼は、空前の権力を手にすることになりそうだ。現代史上最も強力な米国大統領になるということは、世界史上最強の政治的人物になるということだろう。あるいはそれが誇張だとしても、彼が巨大な変化を実現できる位置にあることは確かだ。彼は米国に新たなニュー・ディールをもたらすことができる。彼は米帝国の目標を再定義し、造り替えることもできる。とはい

え、彼の政策声明の多くはかなり漠然としているので（「変革」ほど漠然としたスローガンはない）、彼が実際に何をするのかはまったく不明である。

だが、日本を米国の帝國的事業から切り離したいと願う人びとは、バラク・オバマに助力を期待しない方が賢明だろう。逆に、オバマ帝国は、ブッシュ帝国よりずっと抵抗するのが難しい存在になるかも知れないのだ。

「付記」この原稿は、大統領選挙の8日前に脱稿した。11月15日現在までの推移を見る限り、書き加えることはないと思われる。

【本野義雄記】

（だぐらす・らみす、政治学者、沖縄在住）

## 軍事予算を聖域化するな

——格差拡大社会から転換する財源はそこにある——

天野恵一

低所得者向け（サブプライム）住宅ローン問題に端を発したアメリカの金融不安は、ヨーロッパからアジアをまきこみ、世界大の金融パニックに拡大した。日本も、円高・株安の基調で追い込まれ、輸出産業が自動車を中心に一気に減収。大倒産・大量首切りが始まりつつある。

他方、「規制緩和」「自由化・グローバル化」という口あたりのいい言葉をかぶせ、人びとの現状不満のエネルギーを「構造改革」という革新ムードで吸い上げた小泉政権の、弱肉強食の超国籍化を進める大企業を保護し、貧困をうみだす政策。これがつくりだした社会生活の徹底的破壊への怒りが、この間、日本社会の内側からや々と噴出しはじめ、自公政権はゆらぎだしている。

この危機的状況下、政局より経済政策という口実を見つけた麻生太郎新首相は、「解散—総選挙」を先延ばしし続けている。しかし、あてにした麻生人気はたいしたことはなく、解散にうって出る勇気をなくしたこの男は「経済政策」に逃げこんだ。しかし、日々、麻生（自民党）人気はダウンし続けているのだ。選挙に勝つことだけが自己目的化された麻生政権は、出口を失いつつあるかに見える。

民主党は、「解散」を早めるため、なんと麻生政権に協力する姿勢を示し、法案そのものには反対しつつ、「洋上給油作戦延長法案」（新テロ特措法改正案）の衆院でのスピード成立に協力した。しかし、解散を先延ばしし続けて権力がすがついている麻生に怒り、ほかの野党のつきあげもあつて、やつと参院審議の段階で対決姿勢を回復しだした。

### ●田母神事件と深まる癒着疑惑

その状況下での航空自衛隊トップ田母神（たもがみ）俊雄の論文が公然化。空幕長が「我が国が侵略国家だったというのはぬれぎぬ」だという立場から、あれこれ事実誤認を動員した歴史論文を投稿し、賞を取ったのだ。麻生政権（浜田靖一防衛相）は、すぐ更迭。退職金6000万円が支払われての「退職」を早めるという、ふざけた処置であった。

その後、空自の自衛官が78人も論文応募しているという事実（全体の応募の約3分の1）、それは航空幕僚監部教育課が応募を全国に呼びかけ、かつて田母神がトップであった小松基地（石川県）のメンバーが大量に応募した結果であったとの事実も判明。防衛省の責任問題となり、給油の延長をめざす法案の

採決はストップ。今、国会内外での自衛隊（防衛省）・麻生政権批判の声を大きくしていく運動づくりこそが、私たちの急務である。

この運動のなかで、この間の民主党の動き、平然とアフガニスタン戦争への加担の持続である給油延長法案のスピーディーな成立に、一時的にはあれ協力を示した事実を忘れるわけにはいくまい。ここにはかつて恒久派兵法づくりで合意し、失敗した小沢民主党と自民党の「大連立」の政治が裏ではまだ生きているという事実が示されているからである。

「田母神事件」にもどうう。

「昨年8月11日午前、航空幕僚監部がある市ヶ谷から遠く離れた石川県の航空自衛隊基地に、2人の男性が姿を見せた。1人は懸賞論文を主催した都市総会開発『アパグループ』代表で『小松基地金沢友の会』会長でもある元谷外志雄氏、もう1人は同事務局長のM氏である。基地関係者の話／『元谷氏は時間にして全体で40分〜50分間、F-15という戦闘機に体験搭乗しました。そのうちの20分〜30分間は、実際に上空を飛んでいます』／F-15は全幅13・1メートル、全長19・4メートル、最大速度はマッハ約2・5で航空距離は約4600キロ。世界有数の戦闘能力を持つ戦闘機で、全国の8飛行隊などに約200機が配備されている。米空軍や空自では『イーグル（鷲）』の愛称で親しまれ、搭乗するパイロットは『イーグルドライバー』と呼ばれる。だが、元谷氏らの体験

搭乗には、ある種の不自然さがぬぐえない」〔前空幕長とアパグループ代表の『イーグル疑惑』癒着の点と線「サンデー毎日」11月23日号〕

なにが「不自然」かというと、民間人のイーグル搭乗はそれまで前例がなく、例外中の例外として「コネ」で乗ったのであり、この莫大な飛行の燃料費はタダ、そして許可の最終決断は田母神であったというのだ。その田母神が最優秀賞を取り、300万円の賞金を手にしたのである。

この記事は、さらにこう論じている。

「公務員が第三者に便宜を図る一方で、懸賞金という名の現金を受け取る——そのカネの趣旨が『見返り』ならば、『贈賄賂』という言葉が浮かんでくる構図なのだ」。

名古屋高裁のイラク派兵違憲判決に対して「そんなの関係ねえ」と発言したこの男は、彼を空幕長に抜擢した元防衛省事務次官守屋武昌同様に、民間業者との「癒着」が疑われており、だから麻生政権は素早い処置にふみきつたのだと、この記事はレポートしている。

### ●『防衛疑獄』の重大証言

守屋疑惑をめぐっては、政治家と日米の軍需産業との間をつないで金をころがしているワイクサー、金丸信の人脈でのしあがった秋山直紀が逮捕前にまとめた『防衛疑獄』（講談社）のなかに重大な証言がある。山田洋行から600万の政治献金を受けていた民主党の小沢一郎に関してである。守屋が

名前を伏せてガードしたのは小沢だ、そう述べた後、彼はこう語る。

「93年6月、野党が提出した宮沢内閣不信任案に同調して、この『改革フォーラム21』の小沢ら25名の代議員が造反し、自民党を離脱して新生党を結成する。これだけ大がかりな新党結成のためには、相当な資金が必要だ。その資金はどこから調達されたのか。／小沢一郎らの新派閥『改革フォーラム21』結成の際、金丸信は『小沢のため80億』の資金を用意すると言っていた。もちろん噂にすぎない。だが私自身はその時の金丸には資金のあてがあり、その財源がAWACS（空飛ぶ要塞と呼ばれた空中給油機）ではなかったかと考えている。／なぜならAWACSの調達で動いた田村秀昭は89年に金丸信の力添えによって国会議員となり、その意向で日本戦略センター副理事となり、防衛関連業界からさまざまな形で裏金を掻き集めて金丸に用立てていたパイプ役だと考えられるからだ。／このような大胆な裏金作りは1回生議員だった田村の一存ではできない。伊藤忠の瀬島龍三の影響力、そして瀬島と金丸の関係があつてこそ可能だったのだろう」。

この後秋山は、AWACS導入にからんで、伊藤忠を代理店とした上でのボーイング社への決定に政治家の口きき（利権のための介入）があつたこと目撃証言をしている。一方、小沢が新生党に連れ出した田村議



員は、小沢らにとつてはとても都合よく、守屋スキヤンダルが問題にされだした状況下で亡くなっている（秋山はその死因を疑ってみせている）。

こうした一連の疑惑のどこまでが正確な話か判断のしようがないが、山田洋行の献金問題の時点でも、週刊誌レベルでは金丸から小沢への利権の流れは記事になっていた。小沢が防衛族の利権を独占していた金丸の後継者であったことはまちがいないだろう。

民主党の元代表前原誠司は、フィクサー秋山が仕切る「日本安全保障戦略会議」のメンバーで、秋山人脈の政治家としてつねに名前があがってきた人物である。だから、小沢民主党が防衛族の闇の利権にメスを入れることを期待するのは大まちがいであることを、私たちは肝に銘じておかなければなるまい。小沢民主党がアフガニスタンの軍事協力に熱心だったり、恒久派兵法づくりを急いでいるのも、MD（ミサイル防衛）という巨額の軍事予算が必要な宇宙軍拡を自民党と共に促進している理由も、わかろうというものである。

田母神発言をめぐる件でも、民主党の態度はかななりあやしい。田母神を国会に引っぱりだしたものの、与野党一致でテレビ中継を見送った。鳩山由紀夫幹事長、羽田孜元首相とアパグループ代表との親密な関係がその裏にあるようだ。

## ●軍事費削減を要求するのはわれわれだ

元仙台防衛施設局長だった太田述正の防衛利権（軍需産業への「天下り」システムが生み出すそれ）の内部告発本である『実名告発防衛省』（金曜日）は、米海軍の揚陸強襲船ベローウッドの52億円という巨額な修理代の請求（IHI（旧石川島播磨重工業）が提出した）を18億円にまで下げさせた体験から書き出している。そして、巨額の水増しされた請求があたりまえのようになってしまうメカニズムがすでに成立し続けてきた実態をリアルに示しているのだ。そこでは、田村秀昭議員については、このようにふれている。

「ある関係者によれば、元自民党副総裁で防衛庁長官も務めた金丸信（故人）が、田村の政界転出を強く後押ししたという。／また守屋武昌事件で問題になった山田洋行は、田村の政界進出に際し、ほかの防衛メーカーとともに2億円もの選挙資金を提供したといわれている。／『山田洋行の防衛庁での躍進は田村抜きでは考えられない』これは守屋事件発覚後に山田洋行の元幹部が発した一言だ。軍需産業と政治家や防衛省のトップたち、それを繋ぐフィクサーの間に流れる巨額の闇の金は、あらかた私たちの払った税金である。防衛省が省内にグラム移転事業室を新設し、総額1兆円以上の沖繩からの米海兵隊の移転事業が本格化したことを伝える新聞記事には、こつある。

「日米は移転費用を103億ドル（約1兆815億円）と見込み、日本側は59%にあたる61億ドル（約6400億円）を負担する。ところが、米政府監査院（GAO）は先月、グラム移転費用を当初見込みを大幅に上回る『150億ドル（1兆5750億円）以上』と公表した。／追加負担について浜田靖一防衛相は『当然考えていかなければならぬ』と含みを残すが、GAOが示した移転費用も59%負担として計算すると、日本側の負担は約9300億円にはね上がる。／米軍再編費用の日本側負担額について、06年4月、米高官は『3兆円』との見通しを示した（東京新聞）10月19日」。

どうして国外の米軍基地づくりに、こんなに金を出すのか、財政はパンクしているというのに。「米軍再編」も、やつらにとつては大きな「利権」だからか。財政難を理由に福祉・医療を削減し、「弱者」を切り捨ててきた政府は、軍事費だけは「聖域」化してきた（年度の予算では5兆円にはなっていない）。この大不況下、麻生政権も民主党も「庶民の生活重視」の政治への転換を強調したしている。しかし、その政策に軍事費を全面的に削減して使用するとは言わない。私たちこそが、そう主張すべきである。軍隊を持たないことを宣言した憲法の下で生きる私たちが、その声をあげるのはいくらでもないか。

（あまの・やすかず、本誌編集委員）

「日本がアジア諸国を侵略したというのはぬれぎぬ」とする自衛隊前航空幕僚長の主張にみられるように、歴史を歪曲し、戦前・戦中の軍国主義体制とその行為を肯定・美化する言説が、いぜんとして日本社会の各層に根強く横行している。その一方で、かつて侵略・被侵略の関係にあった2国の子の世代が祖父たちの悲惨な経験を繰り返さないために、共通した歴史観にもとづく近現代史を学ぶことが重要だと考える人びとが多大な時間と労力を積み重ねた結果として、いくつもの2国間共通教科書が生まれている。日韓、日中、独仏の場合を報告する。

## 難産だった日韓共通の歴史教材

坂井 俊樹

### ■はじめに

1976年、旧西ドイツ・ポーランド間で進められた歴史教科書改善のための勧告案が発表された。侵略した国と侵略された国との間での、歴史認識を通じた和解の促進であり、日本にも画期的な事業として伝えられた。とりわけ「教科書検定」が国際問題化した1982年以降には、周辺諸国との関係改善の一つのモデルとして紹介されるようになった。周知のように、1982年問題は、中学校の教科書検定のなかで、戦前期日本の朝鮮半島や大陸への戦略を『侵略→進出』に記述の変更を強要

題が先鋭化していったのである。

一方、日本国内では歴史家や教師、市民運動家らが教科書問題に関心を持つようになり、また南京虐殺などの争点的歴史学研究も深化していくようになった。当然、歴史教科書執筆者も、教科書検定の場で文部省と激しく対立する局面も多くなったが、その対立を克服する道筋を、日本と韓国「歴史認識の溝」を埋める方向に求めることよって、その解決の糸口を見いだそうとした。結果として、日韓や日中間の歴史対話を始める気運が芽生えてきた。

### 1. 歴史教科書をめぐる初期の対話

1990年8月に藤沢法暎氏（現代ドイツ教育史）と韓国の李泰永氏（ドイツ哲学）が中心となり、民間レベルでの日韓両国をまたぐ「日韓合同歴史教科書研究会」が組織された。教科書（近現代史部分）という具体的な教材についての初めての共同研究で

あり、そこには加藤章、君島和彦、鄭在貞、李元淳、それに筆者らが参加し、活発な議論を展開した。近現代史を巡る日韓間の議論の中で、改めて日本人の歴史認識の枠組に疑問符が出されたり、それを相対化させるような韓国史、韓国歴史教育の発想があり、驚きとなる場面もしばしばであった。例えば、「戦争責任」とは、単に15年戦前期ではなく、1910年、あるいはそれ以前からの「侵略・植民地支配責任」も含む概念であることが韓国側から提起された。 「15年戦争」という用語自体、中国だけを意識した概念であること（韓国側にとっては19世紀末から1945年までが戦争状態）、抗日武装闘争期だ（という）、日本の中の少数だが朝鮮側に心を寄せた人びと（幸徳秋水や柳宗悦）に対する理解を求めたことに対する、韓国側からの厳しい批判等が展開された。私達の韓国の歴史学や歴史教育に対する理解不足、勉強不足があり、また韓国側も日本の歴史教科書の執筆者の努力に対する認識不足もあつた。それでも日本人が真摯に受け止めなければならないのは、日本の教科書の構成原理自体に対する問題提起



させられたという内容であつたが、以来アジア諸国の日本の歴史教科書に対する関心が極度に高まり、歴史認識を巡る諸問

であり、その点は重要であった。

当然、和解といっても侵略責任に対する日本側の「贖罪意識」だけでは問題接近は不可能なことは明白であり、多くの日本人に内在する戦前以来の歴史観の残存が明らかにになり、日本史自体の検証が不可避の作業として示された。

## 2. 全時代を対象とした共同研究

その後、君島氏と筆者が韓国の大学に在外派遣されたこともあり、鄭在貞氏らと相談の結果、教科書共同研究の再開を企画した。1997年12月に第1回研究会をソウル市立大学校を会場に開催することにした。その場の方針として確認されたことは次の点であった。

①前近代史を含む全時代を研究対象とする。  
②両国の教科書の学問的・教育実践的検証を丁寧に進める（韓国の教科書についても問題点や課題を追究することにした）。

③東京学芸大学を中心とした「歴史教育研究会」（会長＝加藤章）、韓国側にソウル市立大学校国史学科を中心とした「歴史教科書研究会」（会長＝李存熙）を結成し、両大学の教員や卒業生（主に中・高校教師）、大学院生を中心に組織した（結果的に両国で50人ほどが参加した）。

以後、日本と韓国で共同研究会をそれぞれ年1回ずつ開催することにした。その共同研究会に合わせ、両国内の研究会は、準

備のための具体的なテーマごとの研究を進めた。1998年から本格化した共同研究は、三つの段階で推移していった。

【第一段階】両国の教科書記述について、全時代を通して具体的に分析をした。その際、研究者は歴史研究状況の視点から、教育学者や教師達は教育実践の視点から、詳細に分析し、日韓共通のテーマ・事象について報告し合った。その上で、両方の観点から歴史テーマ・事象を複眼的に捉え、現状の教科書記述の在り方を問題としていった。これらを通じて、日本のみならず、韓国側の教科書の問題点や改善課題が明らかになった（1998～1999）。

【第二段階】第一段階の成果を踏まえ、限定された範囲ではあるが両国の教科書に共通する題材やテーマに対して、いわば「理想的・試案的文案」（批判に対する代案）を作成することにした。日韓の両研究会が、それぞれ自国の教科書の修正「文案」を作成し報告し、討論しあったのである。この方法は有意義で、より複眼的な視点（例えば日韓双方の歴史認識の視点や、歴史学と歴史教育の両立場からの往還的発想）で具体的記述のあり方を模索することが可能となった（2000～2001）。

【第三段階】当初、共同研究は第二段階までで終了する計画であったが、「日韓歴史共通教材は可能か？」というテーマで共同研究会を開催し討議がなされ、その中か

ら何らかの具体的な成果を提示してみようという動向になった。具体的成果を出すことには批判も多く、拙速ではないかとの危惧も囁かれたが、それでも歴史共通教材を目標にすることにした。賛否両論がある中で私たちの研究は、「歴史認識の共有」といった抽象的な成果を期待するのではなく、具体的な教育現場の改善につながる成果をめざした。第二段階における具体的修正文案の作成が、共通教材作成も可能だということ見通しにつながり、判断の基盤になったことは間違いない。その結果が『日韓交流の歴史』である。このように私達の場合、内的な議論の延長線上に共通教材作成の話が決定されたのである（2002～2007）。

しかしながら共通教材は、当初想定された以上に激しい議論と対立を引き起こしたり、また教材としての「質」保証の観点からも、予想を上回る時間がかかることになった。議論は、時には感情的になる場合もあり、出席者が涙する場面さえあった。最終段階では、本としての体裁や文章全体の調整など、特に編集委員になったメンバー（廉仁鎭、李益柱、君島、木村茂光）は、相当な自己犠牲を強いられることになった（\*『日韓交流の歴史』明石書店刊、二八〇〇円＋税）。

なお第一段階における研究成果は、歴史教育研究会編『日本と韓国の歴史教科書を読む視点』（梨の木舎、2000年）に、第二段階における成果は、同編『日本と韓

国の歴史共通教材をつくる視点」(梨の木舎 2003年)にまとめられている。

### 3. 『日韓交流の歴史』での争点

#### 【原稿執筆の方式】

日韓のメンバーを、「先史・古代」「中世」「近世」「近代」「現代」の各時代別小研究チーム(日韓併せて8人程度)に編成した。始めの段階は、各時代別チームによって事前に具体的文案を作成し、日韓両研究会の共同研究会の場(基本は年間2回、必要によって更に増やす方式)で報告・検討・修正を進めてきた。そこで出された意見を踏まえ、時には相手国側研究会メンバーが次回までに文案を練り上げてくることもした。つまり、日本側で提出した原稿(例えば「朝鮮戦争」「モンゴルの侵略と高麗・日本」といったテーマ)に日韓共同で検討を加え、それを更に韓国側メンバーが次回までに修正・完成して行くという具合に、日韓両研究会で複雑に何回も修正議論を重ねたのである。当然、当初の原稿は跡形もなくなり、執筆者が特定不可能なほどの修正が加えられていったのであり、その意味ではじめに書いた執筆者のプライドさえ無視されたのである。

次にならした各時代別に作成した原稿を、今度は何回かの全体会で検討することにした。近現代部分の各原稿は、前近代グループが行ない、反対に前近代部分の各原稿は近現代グループが批評して修正を加えていった。以上の作成経緯が本書のもっとも大きな特長といえる。

#### 【争点と課題】

全時代を検討対象とする意味は大きかった。私達日本人が抱えている歴史認識の問題点が鮮明に浮き彫りにされたからである。例えば、用語の問題——「縄文・弥生」という日本固有の時代呼称に秘められるナシヨナリズムの問題、古代の「帰化」はもとより「渡来人」などの呼称が持つ認識の限界、つまり国境や地域的分断の無意識な前提にある用語概念が取り上げられ、日本列島と朝鮮半島を一体の地域圏として理解する視点の重要さが挙げられる。また、古代(9世紀)の畿内における半島系の諸豪族の多さと多文化国家としての捉え直し、アジア的視野からの「蒙古襲来」の理解、高麗と蒙古の関係、日本史にとって重要な「秀吉の朝鮮侵略」は韓国側から見た場合、韓国社会に影響の少ない事象として理解する方向、などが指摘できる。争点となったのは倭寇、とくに後期倭寇に関する評価(倭寇に朝鮮人も含まれていたかの問題等)、近世朝鮮の小中華思想と朝鮮通信使の評価などである。近現代史は、それまでの日韓歴史教科書研究会などの研究成果を踏まえ、単なる「侵略——抵抗」だけの枠組を脱却する方向を模索した。現代史に關しては、アメリカの新植民地主義政策の視点の導入を巡る議論や、「在日朝鮮人(コ

リアン)」の歴史を重視した構成をたてた。こうした論点を整理すると、そこに見えるのは、第一に、抽象的な存在としての「国家」の姿が、古代以来の国際社会のもとで具体的・歴史的に浮き彫りにされてくることである。自国史だけでは見えない「国家」という実態、国際関係のもとの共存や対立、駆け引き、国家間連合など、国家支配層の利益という立脚点に基づく国家間利害が明瞭になり、その問題点も理解できる。それらを正当化するための「国家史」を脱却するという課題が、日韓歴史教材作成に突きつけられた大きなテーマであった。第二に、教育実践的には、「教材」としての観点からの接近が十分ではない点が指摘できる。内容の難しさや生徒の思考過程とのズレが指摘された。そこには、より本質的に「教材とは何か?」という点が今後の検討課題として浮き彫りにされた。

#### ■まとめ

現在、日中韓、日韓の共通歴史教材が5種類ほどが出版され、それぞれに個性的な接近を試みている。高校生向けとはいえないが『ジェンダーの視点から見た日韓関係史』(梨の木舎、2006年)は、日韓の市民連帯運動の成果として、徹底して天皇制や女性に関する問題を取り上げている。しかしながらいづれの共通教材も教育実践現場からの活用と支持という点では、十

分な成果をあげているとはいいいない。通常の授業で活用されるための制度的な障害と政策担当者側の無理解、他方では共通教材自体の「教材」としての成熟度の問題がある。『読み物』としては一定の成果をあげながらも、教育観点を加味した「教材」としては、さらなる検討が必要ということである。興味を持ってもらうには「侵略―抵抗」の枠組だけでは十分ではないであ

## 『日中共同研究』『満洲国』とは何だったのか』の執筆に加わって

高橋 武智

ろ。学び手側からの視点と興味を持ってもらう工夫が大事なのである。その点で私たちの教材も、発刊が目的ではなく、今後、教育実践をめざした研究が進められる必要がある。授業用資料集の作成、ワークシートや地図帳の作成なども重要である。また教師用の手引書といったものも必要になる。

(さかい・としき、東京学芸大学教授)

日本側責任者の西田勝さんは「はじめに」で、この研究・出版が企画されたのは16年前の1992年夏、長春での国際シンポジウム（日中交互で催された5回のシンポジウムの初回）の席だったと述べている。他方、日韓間の共通歴史教材の模索は坂井論文にもある通り90年夏に始まった。どちらが早かったという問題ではなく、ほぼ時を同じくして、近隣諸国と歴史観を共有しようという企てが始まったことが重要だ。おそらく、冷戦の呪縛が解けたことがこのような可能性を開いたのだろう。

日本版が先行したが、中国版は『偽満洲国的実像』（偽満洲国の実像）のタイトルで、本年12月にも北京の社会科学文献出版社から刊行される予定だ。呼称の違いに注意願いたい。関東軍による柳条湖事件（31年9月

18日）で始まった満洲事変（中国では「九一八事変」）の約半年後に日本は満洲国を「建国」したが、もちろんこれは中国人にとつて傀儡政権にはかならず、何らの正当性もない。つまり「偽満洲国」という言い方しかないのだ。もとよりこれが、当時のリットン報告書も認めた歴史的事実であり、日本側は暫定的に、括弧つきの「満洲国」という表記を採用した。

日本側の主体は最初、社会文学会地球局だったが、その後変動があり、最終的に植民地文化学会が編者となった。これにたいし、中国側は終始一貫、東北淪陥一四年史総編室という中国東北のオフィシャルな歴史研究団体だった。「淪陥」という表現も要注意だ。淪は「沈む、落ちこむ、滅びる」の意で、中国人が東北での事態を恥ずべき

ものと見ていることを印象づける。31年から45年までを正味14年とした期間は、足かけで数える15年戦争に相当するが、この厳密さには、短く抑えたいという気持ちが見えているのではないかと。

そもそも日本で「先の大戦」とはいつからいつまでか。東京裁判では、起訴は28年から45年にまで及んだが、うち有罪とされたのは、31年〜45年までの行為についてだ。にもかかわらず、細川元首相は国会で、戦争の正確な期間を答弁するのを拒否しつづけた。現実には戦没者追悼式などでは、37年の日中戦争以後の死者を対象としている。要するに「満洲事変」は、日本の公式史観から、彼我の死者ともども、排除抹殺されているのだ。

いずれにせよ、道のりは遠かった。この間、企画の提案者はじめ亡くなった関係者もあり、日本側では、歴史学者の協力を仰ぐなどの異同もあった。相手言語への翻訳、そのフィードバック、それに伴う書き直し――苦労は尽きなかったが、仕上げ段階では、大部な学術論文集よりも、高校生に読んでもらえるような平易な文体を心がけた。日中間でナシヨナリズムの摩擦が高まったため、体験をもたない世代への事実の伝承を優先させようという態度の表われだった。両国政府間で、専門家による共同歴史研究↓共通の歴史教科書編集集の努力が始まった今、それに先だつ民間レベルの共同研究

だったことを誇りに思う。

内容的には、これまで採りあげられることの少なかつた反満抗日運動と日本人の反戦運動を重視したのは当然として、「満洲国」とは何だったのかの章に、日本側のまとめと、中国側のまとめが並記されているのも、とりあえずこの種の試みでは大事なことだろう。

筆者自身は、ハルビン近郊が本拠だっ

## 独仏共通教科書が生まれるまで

永井 潤子

### ■はじめに

「ドイツ人であることの良い面はなんだろうか。それはドイツ人が自らの歴史から学んだということである。この過去から我われの特性となった。」

今年10月3日、ハンブルクで開かれた統一18周年を祝う公式記念式典で、ドイツのケラー大統領はこのように述べた。



大統領の言う「自らの歴史」が、ナチ時代の負の歴史を意味していることは明らかで、反射的に日本の現状を思い浮かべた私には耳の痛い言葉でも

た七三一部隊の戦後における隠蔽の歴史と、細菌戦裁判その他をとおし真実に迫ろうとする日本市民の運動をとりあげ、「満洲」の問題がまだ終わっていないことを示唆する短い文章を寄稿した。(小学館・本体3400円)

(たかはし・たけとも、本誌編集委員)

あつた。かつての西ドイツが第二次大戦直後から、近隣諸国(特にフランス)との和解に努めたことは良く知られており、共通の歴史認識をめざす努力も、早くからはじめられている。60年代以降のドイツ人たちは紆余曲折を経ながらではあるが、「過去の克服」、ユダヤ人絶滅という人道的な罪や戦争責任という重苦しい問題とも真摯に向き合ってきた。

隣り同士でありながら、使う言葉も違えばメンタリティーも違うゲルマン系のドイツとラテン系のフランス。両国は何百年にもわたり犬猿の仲で、ナポレオンのドイツ支配、普仏戦争などにはじまり、20世紀の2回の世界大戦も敵味方として戦うなど未だ永劫の「宿敵」とまで言われてきた。そのドイツとフランスが第二次大戦後は和解

につとめ、ヨーロッパ統合の推進力となってきたのは、ヨーロッパを破壊し尽くした第二次大戦への反省からだ。ヨーロッパの平和のためには何百年にも及んだドイツとフランスの敵対関係を解消しなければならぬ。ヨーロッパ諸国の統合の第一歩はドイツとフランスからはじめなければならない」と両国の指導者が考えるようになったからである。

### ■高校生の提案から生まれた共通教科書

この独仏両国の関係改善と協力の本格的な出発点は、1963年に西ドイツのアデナウアー初代首相とフランスのドゴール大統領の間で結ばれた独仏友好・協力条約、通称エリゼ条約だった。この条約の目的は三つあった。独仏両国の和解を揺るぎない形にすること、両国民の間、特に若者の間に真の友好関係を築くこと、統一ヨーロッパ創設を促進することの三つである。以来両国の首脳会議、閣僚会議などが定期的に行われるようになった。だが、条約締結を基盤に教育、学術、文化、青少年交流など民間レベルでの幅広い交流が盛んになったことこそ特筆に値する。同条約に基づいてつくられた独仏青少年局を通じて、これまでもおよそ750万人の青少年が相互に交流、訪問し合ったという。

2003年、エリゼ条約は調印40周年を迎え、これを祝う各種の記念行事が両国で

行なわれた。その一つに両国から550人が参加してベルリンで開かれた青少年議会（模擬議会）があった。

実は独仏共通教科書は、この青少年議会に参加した高校生たちの提案から生まれたのである。高校生たちは「独仏関係の未来についての最終宣言」を発表した中で「相互の無知によってもたらされる偏見をなくすため、両国向けの同一内容の歴史教科書を作成しよう」提案した。この高校生たちのイニシアティブを両国首脳は真剣に受け止め、その実現に向けて努力することを約束した。その後両国の議会も支援したが、中央集権的なフランスに比べ教育における各州政府の権限の強いドイツでは、すべての州の同意を取り付けるのは大変だった。しかし、フランスと境を接する小さな州、ザールラント州の首相が各州の説得に奔走し、異例の短期間で16州の意見をまとめることができた。（ザールラント州は、二度の世界大戦で繰り返しドイツから切り離されたが、二度とも住民投票でドイツへの復帰を決めている。この住民投票の結果を受け入れたフランスの態度は独仏友好関係の歴史に新境地を開いたと言われ、ザールラント州は独仏協力のモデル州となっている。）このようなプロセスを経て同年6月にはそれぞれ10人ずつからなる独仏教科書合同委員会が結成され、翌年1月には独仏の教科書出版社が決まり、それぞれ5人ずつの執筆スタッフが決定する。ド

イツ側の執筆責任者はボンのギムナジウム（中・高校）の歴史教師、ペーター・ガイス、フランス側のそれはパリのリセ（高校）の教員、ギヨーム・ル・カントレック。

共通歴史教科書は全3巻だが、最初に完成したのは、日本の高校3年に相当する上級生向けの現代史『第二次大戦後のヨーロッパと世界』で、フランス語版は2006年5月に、ドイツ語版は同7月に完成、同年秋の新学期から実際に使用されている。高校生たちの提案から完成まで3年あまりという早さだった。今年春には高校2年生向けの『変革の19世紀から第二次世界大戦まで』が完成した。未刊は高校1年生向けの『古代ギリシャの民主主義からフランス革命まで』で、2009年までには出版される予定だという。最新の現代史から逆に過去へとさかのぼる順序で完成したが、これは現代から過去の歴史を眺めるといふ姿勢が反映したのかもしれない。

### ■共通歴史教科書の特徴

この歴史教科書の特徴は、まず、ドイツ語版とフランス語版の内容がまったく同じであるということである。同一のコンセプトに基づき、同一の資料、地図、写真、図を使用している。同一の割り付けで、テキストも専門用語索引も内容は同じ、書かれている言葉が違うだけである。ただし、国家や国民という言葉がドイツ語とフランス

語では異なっており、解釈されるといった問題は避けられなかったという。実際の授業ではこのような問題についても議論するべきだとされている。さらに、教科書の説明部分の文章は簡潔で、短く、必要最低限に抑えられており、統計や図表、歴史的な地図、カラフルな写真や絵などが沢山使われていて魅力的な教科書になっている。私が特に興味深いと思うのは、政治家など歴史上の重要人物の手紙とか手記、あるいは条約の文書の一部など、第一級の歴史資料が引用されていたり、昔のカリカチュアやポスターなど敵対感情が一目で分かるような絵が紹介されていたりすることである。共通教科書作成にあたっての困難のひとつは、両国で異なる教え方、学び方、学び方にいかに配慮するかという点だったといわれる。

例えばドイツでは、典型的なケースに即して生徒自身が問題点を考えるところという学習者主体の学習法がとられているが、フランスでは大学資格試験に出やすい知識や情報を伝授する授業形式が好まれているという（日本と似ている）。結果的には各章の終わりに必ず「問題点と提案事項」がつけられて、生徒の学習を助ける仕組みになっている。もうひとつの大きな特徴は、この教科書が独仏間の和解、共通の歴史認識の醸成という政治的な目的のもとにつくられている点である。教科書の冒頭にも、共通教科書の目的は「ヨーロッパ統合過程のなかに

ある独仏の若者たちに共通の歴史意識を育てることにある」と、明記されている。

しかし、それは政治的な目的のために歴史事実がゆがめられるということでは、決してない。これまでの教科書では自国中心のナショナルな視点が強調されがちだったが、今回の共通教科書はその狭い価値観を超越するものをめざして両国の担当者間で議論が続けられた。注目すべき点は、両国の歴史観に共通点が見出せない部分、つまり独仏の視点が異なる場合には、それをありのままに併記するという方法がとられている点である。「歴史に対する異なった視点を記すことによって、歴史を複眼的に見ることができ、生徒の理解を助ける」とドイツの執筆責任者ガイス氏は言う。第三巻に例をとると、「第二次世界大戦に関するさまざまな記憶」という第一部第二章がこれに相当する。この章でドイツの高校3年生は、なぜフランスが第二次大戦中の対独協力政府だったヴィシー政権の記憶を長年受け入れようとはせず、レジスタンスの闘士の英雄的行為ばかりに目を向けてきたかを学ぶことができる。一方、フランスの生徒は、戦後の（西）ドイツ人が、ナチ時代の自分たちの犯罪行為に口をつぐんだ時代を経て、やがて具体的な責任を明らかにし、社会全体がいかにその過去と真摯に向き合うようになってきたかという「過去の克服」の長いプロセスについて知ることができる。

第二巻は7部19章、第三巻は5部17章から成っているが、第一次と第二次の世界大戦に関しては、ドイツ側がナチス独裁体制の記憶や犠牲者の多さから第二次大戦の影響を重視してきたのに対し、フランス側は自分の国が戦場となった経験から第一次大戦を重視する傾向が見られるという。フランス人にとっては第二次大戦は植民地主義の終焉を意味した。第二次大戦後に独仏両国の間で共通の歴史認識をめぐる努力が進んだ関係から、戦後を扱った第三巻の方が執筆が速やかに進んだのに対し、ナシヨナリズムの世紀と言われた19世紀から第二次大戦までを扱った第二巻の方が、対立点が多かったという。

例えば最初のドイツ統一に成功した鉄血宰相ビスマルクは、フランス人から見れば、アルザス・ロレーヌ地方を奪うなどフランスの犠牲の上にドイツ統一を果たした好ましくない人物となるし、第一次大戦後のヴェルサイユ条約やワイマール共和国の評価に關しても両国の視点には相違があった。しかし、結果としてヴェルサイユ条約はありのままの姿に描かれた。つまり、戦勝国フランスがドイツに対してあまりにも近視眼的な過酷な賠償を要求したことが、その後のナチの台頭、そして戦争への道を開いたという風に。また、ワイマール共和国についてフランスの教科書では「ナチ体制の前身」として過小評価する傾向があったとい

うが、共通教科書では「19世紀の民主主義の流れを踏まえたドイツ最初の共和国であり、その流れは第二次大戦後の連邦共和国にも引き継がれた」という風に書かれている。独仏で視点の違う問題についてはさらに「独仏間の視点の交差」という特別コラムで別途取り上げられているが、このコラムの数は第二巻が六つ、第三巻は五つある。

### ■メディアも高く評価

独仏共通歴史教科書が完成し、実際に両国の高校で正規の教科書として導入されるようになったことを、独仏のマスメディアの多くは「画期的なこと」として高く評価した。フランスよりドイツのメディアの方が大騒ぎしたようで、最初の教科書が出来上がったとき、ミュンヘンで発行されている『シュートドイチェンツァイトウング』は、「ほとんど奇跡だ」と題する記事を掲載し、フランクフルトの全国新聞『フランクフルター・アルゲマイネ』も「歴史家と学校教育者の作業グループがはじめて、国民の間の先入観やナシヨナリズムによる歴史の歪曲という壁をうち破った」と書いた。ベルリンの『タージュ』も「歴史について目を開かせることに成功した素晴らしい教科書」と高く評価し、「テキストも簡潔で緊張感にあふれ、生徒たちにこれで現代史が良く分るようになるという気持ちを抱かせるものだ」と書いた。歴



Information

【神奈川・川崎】●12/8(月)長谷川修児詩朗読会・第3部「東京の空の下秋は流れる」☆開場13:30,14:00～18:00 ☆会場：アートスクエア木月(東急東横線元住吉駅西口徒歩3分 画&画044-433-4010 ☆問い合わせ：長谷川修児〒115-0032 東京都世田谷区代沢2-41-13

【東京】●12/6(土)ビルマ入門講座 講演「ビルマ民主化運動を振り返る1988～2008」根本 敬(上智大学外国語学部教授・ビルマ市民フォーラム運営委員)18:30～20:45 ☆会場：文京シビックセンター4Fシルバーホール(東京メトロ丸の内線・南北線後楽園駅、都営地下鉄三田線・大江戸線春日駅徒歩1分、画&画03-3812-7111 ☆資料代：500円 ☆問い合わせ：ビルマ市民フォーラム事務局(03-5312-4817)

●12/6(土)[12月——心に刻む不戦の誓い]「本音で話そう!自衛隊はイラクで何をしたか!海外派兵は国際貢献か?」18:30～21:00 ☆会場：立川柴崎学習館会議室(旧中央公民館、JR立川駅南口徒歩7分) ☆参加費100円 ☆主催：市民の広場憲法の会(画&画0425-24-9863 かつう)

●12/10(水) アムネスティ世界人権宣言60周年記念コンサート「鬼太鼓座×OKI——和太鼓とアイヌ音楽——」☆開場18:00,19:00～21:00 ☆会場：新宿文化センター大ホール(画03-3350-1141) ☆出演：鬼太鼓座(和太鼓)・OKI(アイヌ弦楽器トンコリ)・古澤良治郎(ドラム)・Marewrew(アイヌ伝統歌ウポボ) ☆料金：一般4500円/小～大学生2000円 ☆チケット申し込み：アムネスティ東京事務所(画03-3518-6777) ☆主催：アムネスティ・インターナショナル日本

●12/23(火、休)[討論集会]「象徴天皇制と「格差」・「貧困」——蟹工船ブームと在位20年奉祝——」☆発言：なすび/野崎六助/平井 玄/天野恵一 ☆開場：13:30 ☆開演：13:45 ☆会場：千駄ヶ谷区民会館(JR原宿駅徒歩10分) ☆参加費500円 ☆主催：反天皇制運動連絡会(画&画03-5275-5989)

●ピープルズ・プラン研究所・オルタキャンパス「正義と公正と社会変革」☆12/19(金)第6回/齋藤純一「デモクラシーの理論と分類」☆1/30(金)第7回/川本隆史「デモクラティックな平等とは何か」☆2/20(金)第8回/金井淑子「女の経歴を語る」☆毎回19:00～21:00 ☆会場：ピープルズ・プラン研究所 ☆参加費：会員1000円、非会員1200円、自己申告貧乏人800円 ☆問い合わせ：連絡先：ピープルズ・プラン研究所(画03-6424-5748、画03-6424-5749)

●2009/1/17(土)～18(日)☆(人権をテーマにした)アムネスティ・フィルム・フェスティバル2009 ☆開場：10:30 ☆開映：11:00 ☆会場：ヤクルトホール(JR新橋駅徒歩5分、画03-3574-7255) ☆入場料：前売り2日券一般4000円、同1日券一般2800円(学生は各500円引き)、当日券一般3000円、学生2500円 ☆主催・問い合わせ：アムネスティ・インターナショナル日本(画03-3518-6777)

【京都】●12/6(土)公開シンポジウム「竹内好の残したもの」☆講演：中島岳志☆コーディネーター：鶴見俊輔 ☆発言：大澤真幸/山田慶兒/井波律子/山田稔/黒川創 ☆開場10:00、開会10:30～16:00 ☆会場：京大館(JR京都駅より市バスD2乗り場206京大正門前下車画075-751-8311) ☆参加費：前売り券2000円/当日券2500円 ☆共催：編集グループSURE/思想の科学研究会 ☆問い合わせ：編集グループSURE(画&画075-761-2391)

【兵庫・芦屋】●12/13(土)山村サロン文芸講座「小田実さんの涙」語り手：澤地久枝 13:30～ ☆会場：芦屋・山村サロン(JR芦屋駅画0797-38-2585) 主催：山村サロン/協賛：市民の意見30・関西

■終わりに

独仏間の教科書をめぐる対話は実は

史の専門家たちの間では批判もあるようだが、その批判は主としてテキストの簡略化によって不正確な表現や単純化が生じたことに向けられているという。ヨーロッパ連合は独仏共通教科書をモデルに、将来はヨーロッパ共通の歴史教科書をつくることを目標に掲げているが、歴史家の間では、2国間の共通教科書は可能でも加盟27カ国共通の教科書は無理という意見が強いようだ。

1930年代にはじまっていたというのが、第二次大戦で中断、戦後復活するにあたってドイツのゲオルク・エッカート国際教科書研究所が大きな役割を果たしてきた。歴史家で北ドイツ・ブラウンシュヴァイク大学のエッカート教授の創設したこの研究所(教授の没後はニーターザクセン州立となり、連邦政府の支援も受けてきた)は、特に1970年代にはじまったドイツとポーランドの教科書対話の推進力となった。独仏の対話が西側諸国との接近をめざしたアデアウアー保守政権によってすすめられたの

に對し、ポーランドとの対話は東西両陣営の緊張緩和をめざした社会民主党のブランド政権の東方外交によってはじめて可能になったと言えるが、その中心となったのがこの研究所だった。エッカート研究所は、現在では世界各地の紛争地域での教科書対話をテーマに活動する世界で唯一の研究機関となっている。日本と中国、韓国の教科書をめぐる対立もとりあげて、関係各国の専門家による研究集会を日本やドイツで開催している。

(ながい・じゅんこ、在独フリージャーナリスト)

# 非武装27カ国を訪ねて

話し手 前田 朗

この地球上には、軍隊を持たない国家が27カ国存在する。3年をかけてそのすべてを見て回り、それぞれの国の成り立ちや制度を調査して1冊の本（「軍隊のない国家——27の国々と人びと」日本評論社、1995円）にまとめた前田朗さんに話を聞いた。（聞き手／編集部 本野義雄）

——27カ国全部を見ようと決意されたきっかけは？

2005年にスイスのあるセミナーで、世界に非武装国家が27あると聞きました。自分で数えてみると、七つしか知らなかった。憲法9条の重要性を唱えてきた私たちが、そういう国ぐにのことをほとんど知らないでよいのか、と思った。もうひとつ、私たちは日本の憲法9条を国外に向けてただ説明し宣伝してきたかという、そ



マイクロネシア ナンマドール遺跡にて

れは不十分だったんじゃないかと思います。それでも、9条が外国に少しでも影響を与えているとしたら、どんなところか、調べなければならぬ。といつても1カ国につき4〜5日の短い旅ですから、大したことは調べられなかったんですが、結論からいうと、9条が外国に影響を与えている点はみつかりませんでした。それでも私は、戦後私たちが憲法9条の意義をもっと強く世界に訴えていたら、軍隊のない国が50や100はできていたのではないかと想像せずにはいられません。

## ●国家と軍隊の通念を打ち破る

——27カ国はいずれも小国で、日本のような経済大国には関係ないという批判は？

もう何十回も聞かされました（笑）。その度に「はい、そのとおりです」と言うんです。まあいろんな議論が成り立ち得ると思いますが、戦後非武装国が次第に増えて、

国連加盟192カ国のうち25カ国（本書で国家として扱っているクック諸島とニウエは未加盟）に達しているという事実は大きいと思います。日本政府は公式見解として、国家は固有の自衛権を持つ、国家は自衛力としての軍隊を持つのは当然、という前提に立っている。軍隊がないのは国家ではないという通念ですね。民主党の小沢一郎氏もかつて「普通の国」という言葉で同じことを言った。でもそれは明らかに間違いであることを、現に25の国が軍隊を持たずに存続している事実が証明しています。

## ●したたかにいきのびた小国群

——ただ、これらの小国も、非武装という理想を掲げたというよりは、現実的な諸事情から、賢明にも軍隊を持たない選択をしたという印象を受けます。

そもそも経済力がなくて軍隊を持たないとか、これという資源もなく国際的に大国と深い関係を持たずにすむとか、地政的に重要な戦略拠点でないとか、国によって様々な事情があるのは事実です。中には太平洋の島国トウヴァルのように、地球温暖化の影響で国土が沈みかけていて、軍隊どころではない国もある。しかし別の見方をすれば、たとえばヨーロッパの小国は諸大国のはざまにあつて、軍事力も経済力もなしに外交能力だけでしたたかに生きのびてきたわけだし、カリブ海の島国は、自力で

## ■軍隊のない27の国々

(前田朗『軍隊のない国家——27の国々と人びと』を参考に作成)

国名	人口 (1000人)	国土面積 (100平方キロ)
<b>&lt;太平洋&gt;</b>		
ミクロネシア連邦	114.00	7.00
パラオ共和国	19.00	4.90
マーシャル諸島共和国	60.00	1.80
ナウル共和国	11.00	0.24
キリバス共和国	94.00	7.28
クック諸島	15.00	2.40
ニウエ	2.20	2.60
サモア独立国	174.00	28.42
トゥヴァル	11.00	1.58
ソロモン諸島	417.00	284.46
ヴァヌアツ共和国	182.50	121.89
<b>&lt;インド洋&gt;</b>		
モーリシャス共和国	1141.00	20.45
モルディヴ共和国	271.00	2.98
<b>&lt;ヨーロッパ&gt;</b>		
アンドラ公国	72.00	4.68
サンマリノ共和国	26.00	0.61
モナコ公国	33.00	0.0181
ルクセンブルク大公国	422.00	26.00
リヒテンシュタイン侯国	32.00	1.57
ヴァチカン市国	0.86	0.0044
アイスランド共和国	276.00	103.00
<b>&lt;中米・カリブ海&gt;</b>		
ドミニカ国	71.00	7.50
グレナダ	93.00	3.44
セントルシア	150.00	6.20
セントヴァインセント・グレナディンズ	112.00	3.88
セントクリストファー・ネヴィス	43.00	2.67
パナマ共和国	2767.00	770.80
コスタリカ共和国	3841.00	507.00

植民地からの離脱、奴隷解放を闘ってかちとったんですね。グレナダやセントルシアの博物館に行くと、自由と民主主義、奴隷解放と独立を求める闘いの歴史が一つになって彼らのアイデンティティを形成していることが、よくわかります。そうした歴史を小学校3年生ぐらいの子どもたちに先生が教えているところを、セントルシアの博物館で見ました。ちなみに、日本では奴隷制廃止というリンカーンの功績ばかり強調する誤った認識が流布しています。世界で最初に奴隷解放をかちとったのはカリブ海諸国であって、たとえばグレナダの

奴隷解放は1838年です。リンカーンはずっと後になって、こうした動きを追いかけたに過ぎないんです。

### ●ユダヤ人を国ぐるみで保護

自由と独立のために闘った歴史は、ヨーロッパの小国にもあります。サンマリノはイタリアのどまん中にある僅か61平方キロの豆粒のような国ですが、ムッソリーニのファシズム政権時代、国内ではファシズムの台頭を抑え、迫害されて逃げてきたユダヤ人を国ぐるみでかくまう。当時1万5千人の人口に対して1万人のユダヤ人を保護

した。当時の記録によると、ホテルなんかではとても収容しきれなくて、教会、学校、お役所、各家庭にまで住まわせたそうです。食糧供給など、想像を絶する苦勞があったことでしょう。

また、リヒテンシュタインはオーストリアとスイスに挟まれた160平方キロ、小豆島ぐらいの広さですが、オーストリアがナチスドイツに併合された後も、ドイツとの外交交渉によって独立を維持しました。ここでもユダヤ人難民を保護し、その多くはスイスへ逃れることに成功しています。

サンマリノとリヒテンシュタインは、こ

うした実績があるので、戦後のヨーロッパで国際的に大きな発言力を持つています。それが彼らの財産なんです。90年代に国際刑事裁判所を創設するさいにも、侵略の罪、人道に対する罪をどう規定するかをめぐって、この両国が先頭を切って発言しています。実際、こうした小国にとって、人権尊重とか平和主義とかは単なる理念ではなく、生き延びて行くための現実的選択なんだと思います。

### ●アイスランドと米軍基地撤退

——もう一つの小国アイスランドは、2006年に米軍基地の完全撤退を実現しましたね。

第二次大戦中、ナチスドイツに占領されてはまずいと英軍が上陸、続いて米軍が駐留して、戦後もずっと居座った。その後政府が米国と正式に基地協定を結ぶんですが、この協定の文章は日米安保条約とそっくりだということを、ある研究者に教わりました。冷戦時代はヨーロッパへの給油基地の役割を果たしますが、冷戦終結後ヨーロッパの戦乱の可能性が低くなり、給油基地の必要性も低下します。米軍の主力は中東からアジアにかけて再編される。不要な基地はお金がかかるので減らしたいわけ。ここが沖繩と違う点で、「思いやり予算」なんてありませんからね。アイスランド政府は基地労働者の雇用問題があるから引きとめたんですが、米軍は一方的に撤退したので、2年前から完全に非武装国になったんです。

### ●9条を世界に広げよう

——本来なら、憲法9条を持つ日本がこうした国ぐにの先頭に挙げられてしかるべきですよ。

残念なことですが、最初に言ったようにいまの非武装国家は9条と何の関係もなしに、それぞれの歴史の中で非武装を選んできました。日本政府は、憲法9条を世界に輸出してこなかった不作為はもちろん「憲法に軍隊を持たない」と書いてあるのに軍隊を持っている世界で唯一の国」という恥ずべき状態を作り出してきた責任があります。

しかし、怠慢なのは政府だけではなく、平和運動をやってきた私たちも、9条の実践的意義を十分に活用してきたとは言えません。憲法9条は、単に戦争放棄や軍備放棄を誓うだけではなく、人類社会のあり方そのものの変革を課題として打ち出しています

す。平和な暮らしを願う世界の人びとに9条を届ければ、多くの人が選んでくれるはずだと確信します。  
(まえだ・あきら 東京造形大学教授、刑事人権論専攻)

### ☆12月の読者懇談会 筆者前田朗さんを囲んで

▼日時…12月16日(火) 18時半～

▼参加費…500円

▼会場…たんぼ舎(JR水道橋駅5分 ダイナミックビル5F)

☎03-3238-9035

軍隊を持たない27カ国を訪れ研究されている前田朗さんを囲んで、日本の非武装化への構想や可能性を話し合います。

### ☆無言館見学プラス懇親会のお知らせ

前号の「事務局だより」でご報告したとおり、無言館見学旅行の計画は、左記のとおり実施することになりました。

▼期日 2009年6月6日(土)～7日(日)

▼集合場所 長野新幹線 上田駅(具体的な場所・時刻は次号で)

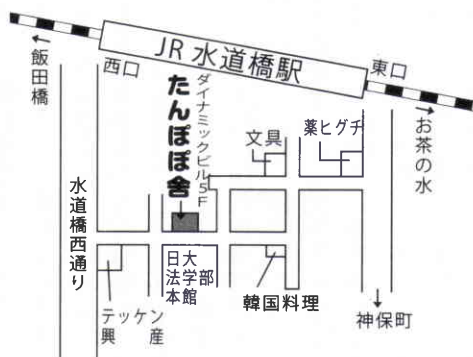
▼宿泊 別所温泉 上松屋(1室4～5名)

▼費用 宿泊費 13,800円

1泊2食、マイクロボスサービスつき(上田↓無言館↓旅館)  
無言館見学料 1,000円

▼懇親会場 上松屋宴会会場(懇親会——入浴・夕食——のみ参加の方は7,000円)

▼次号には、申し込み用紙つきチラシを同封します。ぜひいまから日程を組んで、お誘いあわせの上ご参加ください。



# 現場から派遣労働問題を考える

10月10日読者懇談会の報告

たんぼぼ舎（東京・水道橋）で開かれた10月の読者懇談会「現場の実情から派遣労働問題を考える」には久々に約20名もの参加があり、活発な討論が行なわれた。最初に講師の高岡甫雅さん（よこはまシティユニオン）が問題提起し討論の糸口を作った。

## ●自己主張するのは変人？

**高岡** 派遣労働は生きていく原点であるはずの労働の意義をそぎ落とし、人間をモノにする。労働組合（ユニオン）に行けば、会社からいじめられると思う人が多いが、組合に入れば会社は不当な扱いをできない。ユニオンで仲間ができれば会社と対等に渡り合える。今の社会では自己主張する人間は変人だと思われる。その空気をなくさなければ。若い人たちは派遣労働者も法律で守られていることを学校で教えられていない。

派遣労働者だけでなく非正規雇用の問題も深刻。パート、アルバイト、契約社員などは会社の都合によるネーミングであり、

正規雇用と非正規雇用とが意図的に混用されることで、職場の人間関係がめちゃくちゃになっていく。同一労働・同一賃金が基本であるべきだ。

## 【出された意見のいくつか】

▼今のJRは何かトラブルがあると、すぐ全線止まる。あれはプロが少ないから。  
▼製造業でもトヨタなど品質が落ちた。ここ4、5年でリコールがものすごく増えた。重要な工程でも派遣社員にさせる。  
▼悲惨な労働災害が増えている。法整備が必要だ。

▼同一労働・同一賃金だけでいいの。男女間の賃金格差という隠れた格差がある。  
▼学生ですが、2年くらい前、日雇いのアルバイトをやったことがある。業務内容は清掃と聞いていたが、マンションの壁を磨く仕事だった。4階建てマンションで足場に乗ってやるが命綱などない。何か起きたらどうなるのかなと思った。法整備、法改正だけでなく、今ある法律をどう使うかが整理される必要があると思う。

## ●「死んでも派遣はイヤだ」

▼私は大学4年生で就職活動がこの間終わった。友人と就職について話していたときによく出てくる意見は「死んでも派遣はイヤだ」。派遣労働の実態はある程

度学生でも知っていて、結果的に自分が正社員になればいいということになる。労働三法があること自体知らない学生もいる。これから就職する大学生たちが派遣労働について意見を持たないのが何よりも恐ろしいと、今日参加して思った。

▼元は派遣だった。自動車工場で2カ月か3カ月の契約、時給が1150円。1カ月の時もあつた。ひと月ごとに工場を渡り歩く細切れ雇用。不満を言うとすぐ切られる。減産になると大量にクビを切る。自動車産業ですでにそれが起きている。工場派遣の場合は寮住まいがほとんどだから、雇い止めされると文字どおり路頭に迷う。そういうことが年末にかけて大量に起こるだろう（池田一慶さん、ガテン系連帯）。

▼労働者派遣法の改正を中途半端に終わらせず抜本改革すべきだ。派遣労働を原則自由化した99年の「改正」の前に戻すべきだ。

多様な意見をここでは紹介しきれない。私たちが市民の意見の会30は「市民の意見」の一つとして賃金差別撤廃や全国一律最低賃金制の確立を掲げている。前号の派遣労働特集や懇談会を踏まえて具体的にどのような活動ができるかが問われている。

（まとめ・本誌編集部・井上澄夫）

## あきらめない 反対市民の声

新倉裕史

原子力空母ジョージ・ワシントン配備を3カ月後に控えた今年6月、「原子力空母配備の是非を問う住民投票を成功させる会」（以下「成功させる会」）は民間団体に依託して市民アンケートを実施した。原子力空母の配備について、横須賀市民の今の意識をできるだけ客観的に知りたい、というのがアンケートに託した私たちの思いだった。同時に、1年前に実施したアンケートと同じ質問項目を用意することで、1年間の市民の意識の変化があるとすれば、それはどのようなものかを知ることができる、という思いもあった。

横須賀では原子力空母の配備に反対する市民の運動が10年続いていた。10年の運動の積み重ねの上に発足した「成功させる会」は、07年、08年、2回の住民投票条例の直接請求運動を呼びかけ、2回目の直接請求では、有権者の7人に1名の署名を集める、町ぐるみの運動を実現してきた。

### ● 配備反対が70%を越えた

議会で条例案は2度とも否決された。しかし、「成功させる会」に集まる市民は、2年間町の中を走り続け、運動の中で多く

の市民と接しながら、新しい風が吹きはじめたと感じる事ができた。風は本当に吹いているのか。市民アンケートの結果が目された。

アンケートの結果、配備に反対は5ポイント増えて、70%を超えていることがわかった。配備を直前にして、どうせ来るものは来るのだからという、基地の町の宿命論的なあきらめは始まっていなかった。反対の声は着実に増えていることがわかった。

米軍の情報公開や横須賀市の安全対策についての評価を聞いた項目では、64・3%の市民が不十分と答え、取り組みを評価した市民はわずか8%だった。

実は、昨年のアンケートにも、市民意識の変化はすでにあらわれていた。配備の是非を住民投票で決めることに賛成の市民は74%で、配備反対の64%を大きく上回っていた。配備に賛成と答えた市民も、その52%が住民投票で決めようとして答えていることが、反対64%をこえる数値となって表われていた。

自分達が暮らす町のことは自分達で決める。たとえそれが基地問題という、国政レベルの問題であっても、私たち市民が決めることができる、そう思った市民が住民投票条例の直接請求を支えたのだった。

ともかく、市民はあきらめてはいない。130年続く基地の町で、「あきらめない」という市民意識が、今この町にある、ということに、私たちはもっと驚いている。

### ● 日米安保を拡大・磐石化する横須賀

「(ミッドウェイ)母港化によって、日米安保の信頼度は飛躍的に増した。あの決定によって、今の日米安保の礎は磐石のものとなった」。元米国防総省日本部長ジム・アワー氏は、インタビュアーに答えてこう証言する(在日米軍指令部)。

35年前、ミッドウェイによって始まった横須賀の空母受け入れは、磐石化した「日米安保」を拡大し続けた。湾岸戦争(空母ミッドウェイ)も、イラク戦争(空母キティホーク)も、横須賀を母港とする空母が主役となった戦争だった。2つの空母の随伴艦は、どの艦よりも早く巡航ミサイル・トマホークを発射し、戦争の火ぶたを切つて落とした。横須賀は国際法を無視したアメリカ軍の先制攻撃を支える町として、機能し続けている。

二つの戦争は、安保条約6条の「極東条項」を無視した、「安保やぶり」の戦争でもあった。米軍再編で日米安保は世界大の軍事同盟に変貌しようとしているが、横須賀はそれをすでに実行している、とんでも



原子力空母 G・ワシントン入港に抗議するヨコスカ平和船団 (9月25日)

ない町というわけだ。

「日米安保」を磐石化し、「日米安保」を拡大した横須賀母港の空母は、9月25日、原子力空母ジョージ・ワシントンにバトンタッチされた。横須賀に設置されたふたつの原子炉。市民は事故が起きないようにと祈りながらの暮らしを強いられる。「10年前なら誰が想像できたか」(米太平洋軍司令官)という大変化が、私たちの目の前で行なわれたのだ。

この町のとんでもなさを、私たちは丸ごと引き受けて、今ここにいます。この町を

基地のない、

あたりまえの町に変えるために、なにをすべきか、私たちは問い続ける。その答は、この何年間かの地域ぐるみの運動によって、すぐそこまで近づいてきているように思える。

### ●まず安全問題をとことん追及する

横須賀では9月25日以降の運動がすでに始まっている。「住民投票を成功させる会」では、9月25日以降の運動のために、新しいパンフレットを発行した。「原子力空母は本当に安全か・パート2」。オールカラー、52ページ。300円。

あえて、この時期に1万部ものパンフレットを作ったのは、9月25日で運動は終わらないということをし、「決意」として語るのではなく、具体的な物で示す必要があると考えたから。

原子力空母配備反対の運動は、横須賀に2つの原子炉が設置され、新たなリアリティに市民は向き合わざるを得ないわけだから、文字通り「これから」が本番。しかし、そうは言っても、待っていて、「これから」の運動が始まるわけではない。

また、原子力空母であっても、既成事実の重みはある。それを無視することはできない。そう考えると、9・25以降に、何とかしたいと思う人たちの手に、実際に触れることのできる何かが手渡されることが必要だと私たちは考えた。そこで、新パンフレット、1万部。

すでに、「成功させる会」に集まる諸団体によって市内全域での配布が行なわれている。市内最大の本屋さんのチェーン店全店に置いてもらうことも決まった。

9・25以降、いくつか受けた取材の中で、安全問題だけでは不十分ではないかという意見に接した。紙幅がないので、私自身の結論だけを言えば、基地問題のひとつの側面である安全問題をとことん追及できてこそ、安保の問題も具体的に論ずることができると思っている。安全審査が行なわれなままジョージ・ワシントンが横須賀に配備されたのも、すべては軍事機密、安保の壁があるから。安全の確認を求める市民の取り組みは、そのまま安保の壁に穴をあけようとする運動でもある。

安全問題に関して言えば、特に横須賀市の姿勢はおそろしく後退している。自治体でできること、できないことがあるのはやむをえないとしても、蒲谷市長はまったく何もしようとしなない。ジョージ・ワシントンの火災事故についても、なぜ80区画に火が燃え広がったのか、この一番肝心なことについて、米軍に質問すらしない。それで安全が確認できるのかと問えば、市の担当者、国が安全だといっているから、の一点張り。

こうした市の姿勢を市民に広く伝える、というのが緊急の課題だ。間もなく市内全域で配布するリーフレットが完成する。12月14日には、井原元岩国市長をお招きして、自治体は何ができるかのシンポジウムも開催する。

(にいくら・ひろし、非核市民宣言運動ヨコスカ)

# 700回目が近づくと ちようちんデモ

谷島光治

ちようちんデモを始めたのは1967年7月です。当時はベトナム反戦運動が高まりを見せていた頃ですから、スタートした時は「ベトナム反戦ちようちんデモ」でした。そしてそれは東南アジアの小国ベトナムに対するアメリカの、猛毒ダイオキシソシンが入った除草剤を使うなど、人道上也許されない戦争に抗議する気持ちも含まれていました。

ベトナム戦争が終った時、私たちの活動は終ったという発言もありましたが、ベトナムの問題はまだ終わっていないし、日米安保条約がある限り、日本がアメリカの惹き起こす戦争に加担する体制は変わらないのだから、「アンポをつぶせ！ちようちんデモ」と名を変え、月例デモを続けることにしました。ただ、それまで月2回のデモでしたが、長続きさせることを念頭に置いて、1月1日と毎月15日の、年13回としました。

## ●参加者2人のときも

吉祥寺駅南口、丸井デパート近くの武蔵野公会堂前を午後7時10分（1月1日は午後3時30分）に出発して、三鷹駅前まで歩きます。ただ、安保反対と言っても横須賀や

座間と違って目の前にデモの対象がありませんから、参加者が減って2人になることも珍しくありませんでした。1人が宣伝カーを運転すると、プラカードを持って歩くのはあとの1人です。道路を走る車からは「邪魔だ、歩道を歩け」「他人の迷惑も考えろ」などと怒鳴られました。ただ、「継続は力」だと私たちは思っています。最近20名を越えるほどの人数になることが多くなりました。そして、道端の人が拍手をしたり、時にはカンパを渡してくれることもあります。

## ●手押し車にアンプを乗せて

デモ自体は金がかかりません。ただ、車を使うと結構費用がかかります。横須賀では手押し車にアンプとスピーカーを乗せて数百人を越す集団でも、シユプレヒコール、楽器伴奏の入った歌のリード、基地に対する呼びかけなど、何でもこなしています。ちようちんデモの車が老朽化して買い換えることになったとき、私は横須賀の真似をしたら？と言ってはみたのですが、ちようちんデモの創立者・もののべながおきさんの遺品ともいえるアンプとスピーカーを捨

てきれず、大型機材を積み込めるような車を使い続けています。スピーカーは酷使にも耐えて健在、音量は右翼の街宣車には負けますが、繁華街の道路でも充分使えます。もののべながおきさんは、戦時中、学生運動で逮捕され、留置所暮らしが長かった人ですが、戦後の一時期は労働運動や市民運動のリーダー的存在でした。

もののべさんは原水禁止運動にも積極的に取り組み、1980年代には16ミリ映画機とフィルムを車に積み込んで、東京だけでなく近県をくまなく回って10フィート運動の上映会を続けていました。10フィート運動とは、1人が10フィート分ずつお金を出し合って米軍からフィルムを買い取り、それをもとに原水爆の被害を明らかにする映画を作ったもので、いまでもそのフィルムは5作分全部私のところにあります。少人数の集会で映写することもあり、評判もいいのですが、映像がほとんどDVDになった今では上映の機会もなくなり、もつたいたいと思いつつ死蔵しています。あまり金をかけずにDVDに移し変える方法はないものでしょうか。

この頃使っていた団体名「原爆の記録を写す会」は、ちようちんデモの会よりよく知られていました。

もののべさんが亡くなったのは1996年の12月15日です。ちようちんデモの当日でしたから、出発前に病院に寄って、これ



からデモに出発しますとお知らせするつもりでした。私が顔を出した時ものべさんは、か細い声で「あとのことはよろしくお願います」と言っただけで意識がなくなりました。慌てて医者に来てもらったら、ご臨終ですと告げられたのです。それ以来私はちようちんデモと縁が切れずにいます。

### ●警察との人間関係

デモを続けていると、警察とも妙な縁ができます。奇数月は三鷹コースですから、吉祥寺通りを南下、連雀通りから三鷹駅前通りを北上します。偶数月は武蔵野コースです。吉祥寺駅前から北へ五日市街道に出ます。両方とも3km、1時間弱です。そして武蔵野コースは、ずっと武蔵野警察の管轄地域を歩きますが、三鷹コースは途中で三鷹警察に変わります。そうすると警官の対応も微妙に違ってきます。よく言えば武蔵野警察の方が人間的で、私たちとも挨拶をかわしたり、時には冗談を言ったりもします。その代わり人間関係を利用して、次回から距離が短いコースに変えさせようと話しかけてくることがあります。速く歩かせて早く終らせたいと企んでいる気配を感じることもあります。仲間で「終ったあそこどこ飲もうか」などと話をしているのを聞くと、やっぱりと思うこともあります。比較すると、三鷹警察は人間味は感じら

れませんが、几帳面に仕事を続けている点は評価できそうです。公務員としては、その方がいいような気がします。

ベトナム反戦の頃は、若者の参加が目立っていました。もののべさんのお宅は敷地が200坪以上あったので、広い庭にあった物置のような建物に泊り込んだ学生風の若者が、デモの時間になると出かけるという参加の仕方だったようです。今の若者にはデモは古臭くて魅力がないのだろうと、ピースウォーク・パレードなどという方を替えているグループもありますが、そ



2008年1月1日のデモ、武蔵野公会堂前にて

れで若者が参加するとも思えませんが、ちようちんデモの参加者も高齢になっていますが、かつての若者がそのままを取ったという感じでした。

ただ、若者の参加は少しずつですが増えています。年に1〜2回は参加してくれる人に聞いてみたら、「毎月15日はちようちんデモだということを忘れてはいないんだけれど、なかなか時間が取れなくて参加できない」という答えが返ってきました。若者が置かれている想像以上に厳しい労働環境が活動を停滞させているのだということが分かりました。

ちようちんデモは2010年2月15日が700回目になります。今まではまず記念集会を開き、その後でいつも同じデモをしていました。デモは何があっても変更しないということが、私たちのモットーです。大雪が降ったとき、警察から何度も電話がかかりました。「今日は中止でしょ?」「いえ、やります」「本当にやりますか?」「本当です」警察はあきらめて、チェーンを巻いたパトカーを出してきました。私たちは街宣車なしでプラカードを持ち、地声でシユプレヒコールを続けました。700回記念は月曜日ですが、午後5時から記念行事、7時からデモにしたいと思います。

(やじま・こうじ、三鷹ちようちんデモの会)

# 意見広告に参 加したきっか けと8期への 抱負

## 市民意見広告運動 スタッフは語る

「私がこの運動にかかわったのは確か4期からだと思います。きっかけは元北区の区議さん、その方から送られてきた「市政報告」に「9条を守る意見広告に賛同しましょう!」というようなことがありましたので、以前から戦争放棄をうたった9条は変えてはいけな思っていましたから、早速賛同金を送りました。その後送られてきた報告書の中にボランティア募集があったので、少しでも役に立てればと思つて参加して今に至っています。

それからいつの間にか5年目になってしまいました。とはいえ、はじめのうちは発送やら色々な雑用を手伝うことぐらいしか出来なくて、6期頃から先輩に教えて頂いてPC入力など少し深くかわるようになりましたが、全体の流れなど細かいことは把握していませんでした。

8期はスタッフが入れ替わって戸惑うことが多いのですけれど、皆で知恵を出し合つて頑張つてよい広告が出せたらいいなあと思っています。また色々な集会に皆で参加するのも大変勉強になっていいですね。色々難題も有りますが楽しみながらやっていきたいです。今まで中心になってやって下さった人たちのご苦労が身に沁みています。

### ●最初はメールを見て

K 私は地元で9条の会をやり始めたんですが、何をどうしていいか分からなくて、その時に意見広告のメールを見て、一人2000円、団体だったら4000円だったので、地元の主要メンバーに、9条の会で4000円出して賛同しないかかって相談したら、「それなあに、こういうところって怪しいよね」って言われたけど、私は信頼できたからそれが悔しくて、自分は個人で賛同したら名前が出たんですよ。その時にボランティアも募集していて、私も休眠状態で自分が何していいかわからなかったもので、講演会や講習会のことなどのノウハウを教えてくれると思つて初めて行つたら、また来てねつて言われて、それから行き始めるようになったんです。ずいぶん勉強になりました。

私は6期の後半と7期と1年半ぐらい、世の中とちよつとずれているんじゃないかなつてジレンマを感じていました。会社の

中でも若い子とか学生アルバイトの子と私の話すことが極端に乖離しているの、そこをどういう風にしたらいいのか考えていました。

8期では同じように考える人たちとやっていけるんじゃないかなつて期待があつて嬉しかったですね。また、講演会のことや文案なんかも含めて担当制にしたりとか役割分担したり、当番制にしたりとか、来年は国民投票法案が目前に迫っているけれど、今年はまだ一年あるので、様々な個性の人がそれぞれ吸収してきたものを寄せ集めて、講演会もプロジェクト方式にしたり、実験の年として新しいことにどんどんトライしていくエネルギーがあつていいなと思つてます。

### ●いま動かないと後悔するという気持ち

T 私は平和運動に細く長く関わってきましたが、人と関わるのが苦手で、一人9条を続けてきました。たまたま現在住んでいる地域の9条の会に1、2度参加しましたが、イマイチと思つたので参加を辞めたら、ある日、Kさんともう一人の方が、家に来られて「手伝つてほしい」と言われました。一度は断ろうかと思いましたが、今、動かないと後悔すると思つて、現任、運営補助ということで参加して、現在は深く関わり運営事務局担当です。意見広告は、Kさんの紹介でボランティアになり

ました。

友人が意見広告の賛同者だったので聞いてはいましたが、そこに自分が、ボランティアとして参加するとは思いませんでした。

今回は昨年比べて楽しく参加しています。ただ実務スタッフになり、思ったより責任分担制っていうのは難しいものだなあっていう実感ですね。8期は、意見広告運動転換の年かなと思います。だから少し深く関わってみたって気がしています。全国に散らばっているお友達と意見広告に掲載される名前を見て繋がっているということを今年は特に実感できました。また繋がるという意味では全国各地の9条の会などで、がんばっている人たちと、同じ目的で運動しているという一体感も感じました。8期は意見広告初のTシャツを作ることが決まり、鈴木一誌さんの事務所にも何度もお邪魔して、打ち合わせをして、やっと出来上がりまでこぎつけました。

チラシ作りの大変さも経験し、久しぶりにゼロから作り上げる喜びを味わっています。

### ●次に繋ぐという人の思い

S 私は仕事をしていた時に目の前の生徒達に困難なことがあった時に、特に定時制なんかでは、やっぱり社会が変わらないとどうにもならないっていう思いを何度もしたので、仕事が終わったなら何か少しでも

社会的な運動に関わりたいという気持ちがあつて、教育行政がひどくなればなるほど、歯軋りする思いでいつもそういうことを感じていました。それで退職してから探した幾つかの団体の中で、意見広告では、集会には出られない、平和を求める気持ちはあるけれど行動できないっていうそういう皆さんの声を集めて、何かお仕事できるかなと思つて、それで入りました。

**\*映画と講演の集いを開きます**  
2009年3月7日(土) 午後、市民意見広告運動と市民の意見30の会・東京主催で、映画『アメリカ ばんざい』上映と藤本幸久監督の対談の会を企画しています(対談のお相手は未定)。  
左のチラシをごらんください。(T)  
会場 東京ウイメンズプラザ・ホール(神宮前)  
参加費 前売り1000円(当日1200円)  
\*チケット発売12月より(予定)

ではないので、結構難しいなっていうのは実感しています。  
ただ去年やって思ったのは、全国から年金の一部を必ず送ってくださる中高年の方々もつと若い人にも入ってもらうにはどうしたらいいのか、いろんな集会に出れば出るほど次に繋いでいかなくてはという思いがあったので、Tシャツを作ってみたり、若い人のパレードで楽しく撒けるチラシも作ったりして、深く関わることができて嬉しいです。  
(10月19日、代々木事務所)

### \*意見広告初のTシャツ 出来ました



鈴木一誌さんのデザインです。  
サイズは、S、M、Lの3サイズ  
カラーは3色展開  
ミントグリーン フロストブルー  
フロストピンク  
1枚1300円です。  
好評発売中!

映画と講演の集い

# アメリカ ばんざい

crazy as usual

上映日: 2009年03月07日(土)  
時間: 午後1時30分  
会場: 東京ウイメンズプラザ / ホール  
東京都渋谷区神宮前 5-53-67  
Tel / 03-5467-2377

上映後: 藤本幸久監督のお話  
参加費: 前売1,000円(当日1,200円)



なぜ若者は戦場行きを選んだのか  
...そして何を見たか  
日本の若者の明日を考えてみましょう

2009年5月3日(憲法記念日)の全国紙および地方紙に、「九条実現」「武力で平和はつくれるか」の意見広告を出しましょう。

市民意見広告運動(第8期) 市民の意見30の会・東京  
151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-29-12-305  
Tel/Fax: 03-3423-0266 03-3423-0185



## きわめて控えめな戦争批判

「チエチェンへ アレクサンドラの旅」



監督／アレクサンドル・ソクーロフ ■ロシ  
ア／劇映画、92分 ■主演／ガリーナ・ヴィ  
シネフスカヤ ■配給／パンドラ、太秦 ■  
2008年12月20日以降、渋谷ユーロスペース  
スをはじめ全国で順次公開

▼やや太り気味で足元があぶなっかしい老  
女がひとり、貨物列車から荒廃したチエ  
チェンの町、グロズヌイのロシア軍駐屯  
地に降り立つ。彼女はここに勤務する27歳  
の孫に会いに来たのだ。ロシアでは、兵士  
の家族が前線まで面会に来る例が珍しくな

いという。意外な話である。

▼殺風景な駐屯地のテント暮らしの中で、  
老女は部隊長にも下級兵士にも物怖じせず  
に話しかけ、兵士たちにピロシキをふる  
まって故郷の母親のような役割を果たす。  
しかし、7年ぶりに会った孫は精悍な面構  
えの小隊長であるにもかかわらず、多くの  
人びとを殺傷した経験や日々地雷の危険に  
さらされる緊張のため、内面はぼろぼろに  
傷ついている。彼女の力でも癒すことはで  
きない。

▼老女は近くの日用品市場に出かけ、地元  
の女性たちと親しくなる。戦火の跡も生々  
しい彼女らの家を訪れ、語り合う。彼女ら  
の1人は言う。「男同士は敵になるかも知  
れないけれど、私たちは姉妹よ」。帰りに  
老女を送ってくれた若者は「ロシアはもう  
われわれを解放してほしい」と訴える。「ど  
んなに辛いことでも、いつかは終る」とい  
うのが、彼女の答えだった。

▼この映画はチエチェン戦争そのものにつ  
いてはほとんど描いていない、と批判する  
人がいるかも知れない。確かにこの作品を  
見ても、ニュース解説を見るようにチエ  
チェン戦争の複雑な経緯や悲惨な実態がわ  
かるわけではない。それはちょうど、日本  
で先頃話題になった(終戦時のヒロヒトを描  
いた)ソクーロフの「太陽」を見ても、と  
くに日本の天皇制について理解が深まる効  
果はなかったのと同様だろう。彼が映画表

現に求めているのは、もう少し違う次元の  
普遍性ではないかと思われる。

▼ソクーロフにとって、老女アレクサンド  
ラは平和と日常生活の象徴である。彼女の  
動作はあくまで鈍く、ゆったりしていて、  
近代兵器や装甲車、重装備の兵士らとはお  
よそそぐわない。この作品はその対比を入  
念に描くことよって、どちらが人間とし  
てノーマルでありどちらが狂っているかを  
問いかける。そうすることで、プーチンが  
ブッシュに悪乗りして「対テロ戦争」と  
正当化しているこの戦争も、ほかのよろも  
ろの戦争と同様に大義を欠いていることを、  
きわめて控えめに訴えている。いまのロシ  
アの制限された表現状況の中ではこれがぎ  
りぎりぎりの方法なのかも知れないが、とい  
うよりもむしろ、これがソクーロフの戦争批  
判のやり方なのだと思う。

▼主役のガリーナ・ヴィシネフスカヤ(82  
歳)は広く知られたかつてのポリシヨイ・  
オペラのプリマ・ドンナ、名チェリストの  
夫ロストロポーヴィッチと共に作家ソル  
ジェニーツィンを保護してソ連を追放され  
た民主化運動の旗手である。その波乱の人  
生は、『ガリーナ自伝』(和田旦訳、1989  
年みすず書房刊)に詳しい。実際のロシア現  
代史の中で歴史的な役割を演じたこの女性  
が、映画の中でも強烈な存在感を示してい  
るのは、けだし当然といえよう。

本野義雄(もの・よしお、本誌編集委員)

## 孫たちへの証言

中西仁郎

真つ赤に焼けた鉄の棒で、思いつきり殴られたような衝撃を左腰に受けた。

喉がガァッと渴く。思わず小銃の把手から手が離れ、雪を掴んで口に入れた。

「俺は何歳(いくつ)だったっけ!」と頭に浮かぶ。幼い頃、病魔に侵されて亡くなった母、その後応召まで育ててくれた父、そして姉や兄・妹たちの顔が、走馬燈のように頭の中を駆け巡っている。

こう書けば永い時間のようだが、ほんの一瞬のことだった。

私の少しうしろ、右横側にいた戦友の背中の、機銃の弾庫が花火のように火を吹き、暴発しているのが、薄れ行く意識のなかで判っている。

1945年2月8日午前9時頃のこと。

場所は中国湖南省邵陽県巖村という小さな集落の、丘の中腹に建っている2階建ての農家の前庭。ここが匪賊(注1)の拠点。

いま思えば無茶なことをしたもので、この農家を完全に取り囲んで、その正面30メートルまで接近した地点で身を伏せて小銃を撃っていたのだから、相手は血路を開くために、この建物の2階からチェコ機銃

と小銃で応戦してくる。

無茶といえば、この戦鬪の当初、この農家の屋根と裏側の丘が接近しているのので、屋根瓦の一部を取り除いて手榴弾を投げ込むことを私と戦友の原田とで思いつき、2人だけの判断で屋根によじ登り、原田が左手を延ばして瓦を動かしたのである。その音に気がついてか、下から軽機関銃の猛烈な射撃を受け、原田が転げ落ち、原田を支えていた私も一緒に転落。「お前ら命が惜しくないのか!」と、あとで上官にたしなめられた。(幸い原田の傷は、弾が左小指の根元を貫通したものの、大事には至らなかった)。このような経過のあとだけに、原田の仇を討ってやるとばかり、前庭に回り第一線に飛び出して行って、前記の負傷を負う結果になったのである。

## ●「拳銃で頭を撃ってください」

話を戦鬪に戻そう。

攻めるこちらの最前線は小銃と少し離れて軽機関銃。10メートルほどうしろに擲弾筒(接近しすぎて発射できなかった)と小銃隊。小戦鬪のためか重機関銃隊は参加していな

かった。

第2列目の伏せていた戦友の眼には、チェコ機銃に乱射され、雪煙りに覆われた私たちは「やられた!」と映ったという。

私自身、最前列からどうやって引きずられ、後方の安全地帯に運ばれたのかは覚えていない。多分、失神していたのであろう。気がつくと、日頃から尊敬していた指揮官の武田耕一曹長が、心配そうに私の顔をじーっと見詰めている。

傷は激しく痛むが、出血は多くないようだ。弾丸が腹の中に入っていたら、腸が切れていて、耐えられない痛みに襲われ、長時間苦しみ、そして死ぬことになる。

「曹長殿、苦しみ出したら拳銃で頭を撃ってください!」と頼んだ。「それでいいのか?—それで—」武田曹長は蒼白な面持ちで、腰の拳銃を手にして、私の右のこめかみに当ててくれた。心なしか、曹長の眼にきらりと光るものがあった。

## ●1センチが生死を分ける

戦鬪は続いていたが、私は雪の上、傍らに武田曹長が—。

どのくらい時間が経ったのか?雪の上にならされていた私に異変が起きた。—屁が出たのである。

「曹長殿、屁が出ました!」なに、助かるぞ!」「衛生兵、早く来い。ジロウが助かるぞ!」と叫んでいる。

走ってきた衛生兵は、軍袴（ズボン）を切り裂き、傷にヨードチンキを流し込み、三角巾で覆い、ありあわせの布で腰を巻き、急造の担架を造ってくれる。

もう1センチ内側に被弾していたら、いまの私はいない。

私の傍らに、武田さんが居てくれなかったら、どうなっていたか判らない。

原田にしても私にしても、当たり前によつて「生」と「死」に別れていたのだから。私の腰の中には、あの時の弾片がいまも在る。

傷口から血膿を流しながら、原田と一緒、ある時は別々にいくつかの野戦病院を経て、辿り着いたのが揚子江岸の漢口（いまの武漢市）にあった陸軍病院である。こ



1943年、彭沢にて、筆者

こで左腕を失った武田曹長と再会した。人間の運命は判らないもの、この病院で弾片摘出予定の3日前、8月15日敗戦の放送を聴く。

充分な設備のない野戦病院で、手術が出来なかったことは、私にとって幸運だったのかも知れない。

原隊に戻るよう命令され、膿の出ている傷口を押さえ、杖を片手に、ついこの間下ってきた揚子江を遡って原隊に復帰したのが、9月中旬のこと。部隊では、私は死んだことになっていた。

### ●「私は生かされている」

部隊は国府軍の捕虜になってはいたが、与えられた民家で自主的な生活・自治権が認められ、周辺の農家の手伝いに出て、足りない食料の補給などもした。10月初旬、武装解除。

傷口の塞がらないまま、翌1946年6月、生まれ故郷の北海道網走に復員することが出来た。

外科の医師は手術をすすめてくれたが、多量の輸血が必要で、手術のあと通常の歩行が出来る保証はないという。たまたま通院していた耳鼻科の医師が、傷口を見て「骨片が遊んでいるのかも」と、細い銀の棒のようなもので探っていて、骨片3個を取り出してくれた。

もし敗戦の日が遅く、漢口で手術をしていたら—と思うと、改めてぞ—つとする。私にとってはオマケの人生60有余年。多くの仲間が死に、傷ついている。それだけではない。中国人のうちに計り知れない被害を与えている。このことを、負の遺産として忘れることがあってはいけない。

私が負傷したあとの4月に始まった作戦に、中隊で参加したのは120名、復員した者は36名、そのうち無傷の者はたった2名ということだ。

そして、この作戦は永く秘匿され、敗戦の後公表されている。いま、思うこと。

それは亡くなった人たちのために、平和を守ることに。そのために、「私は生かされている」と考えている。

中華人民共和国・建国の軍人・政治家である陳毅外相は、「中国は（日本の侵略を）忘れる。日本は忘れてはいけない」と語っている。

そうだ！それと同時に私たちは、「お母さん—」と叫んで斃れていった、多くの戦友を忘れまい。

（なかにし・じろう、札幌市在住 87歳）

◆注1 匪賊（ひぞく） 制服を身に着けず、農民の服装で農耕をするかたわら軍務についていた中国共産党軍（八路軍）兵士を、当時の日本人はこう呼んでいた。

## ◆無言館の絵のこと

京都府京都市 大沢ミヲ  
無言館の絵の表紙をみるだけでも、とても冊子と粗末にできません。

## ◆『市民の意見』には静かに同感できます

長崎県長崎市 伊藤淑子  
教会関係の友人から貴誌の110号をいただいて拝読いたしました。最初の「一九四三年冬の手帳―ある牧師の思い出」で胸が熱くなりました。ああ、読みたかったのはこのようなものだ……。

平和運動には原爆反対の原水禁・原水協が分裂するところから携わってきました。勤務に忙殺され運動から遠ざかった日もありましたが、退職後はあれこれの会や平和デモ、署名などにかかわってきました。しかし違和感があり胸につかえるものがあつたりしたこともあります。年齢のせいで駄目なのかと挫折感を味わうとともに、いややし違うという思も密かにあつたりします。でも貴誌には静かに同感できるものを感じます。

## ◆有権者に告げたいこと

東京都世田谷区 長谷川修児  
経済、景気よりファシズムが問題ですよと選挙民に告げたい気持です。

## ◆1票を次の選挙で生かしたい

東京都杉並区 吉田嘉清  
ひどい内閣ですね。一人一人の1票をこの次の選挙で生かしたいですね。憲法のことを口にもしない麻生首相。アメリカの戦争協力にストップを。

## ◆まだまだ言い足りない戦争体験世代

京都府京都市 高橋千夏  
いつも励まされ、元気が出てきます。戦争を市民として生きた者は、意見を正直に言い続けて、まだまだ言い足りません。

## ◆温暖化と戦争は根っこが同じ

愛知県名古屋市長 小栗郁子  
資本主義は生物の存続と相容れないほどになってきたのでしょうか。スピードや快適さや利便さや利益の追求は必ず何かを奪っています。温暖化と戦争とは根っこは同じだと思います。でも人間の智慧は一歩進んだ社会の実現を可能にしつつあります。最大国のすぐお隣元で。

## ◆うれしい反応

山口県下関市 大谷正穂  
前号で拙稿に『海』の申込先を加えて頂いたので、群馬の方から定期購読の申し込みがありました。なにしろ少人数でやっているのです、うれしいことです。ありがとうございます。

## ◆前号の無言館の絵が胸に迫ります

長崎県長崎市 西岡由香  
表紙の絵（「祖母の像」）が胸に迫ります。そして戦争体験、9条、派遣労働問題まで幅広く取り上げておられる内容の重厚さに感嘆しました。来年4月に、長崎で雨宮処凛さんの講演会を開くので、とくに鎌田慧さんの派遣労働問題の部分は納得するところしきりです。朝鮮民主主義人民共和国への経済制裁を叫ぶ前に、自国民への経済制裁を解除してほしいですね。編集に携わる皆さまの熱意が伝わってきます。ぜひ多くの方に紹介させていただきます。

## ◆9条を世界平和に

大阪府大阪市 大東齡子  
北京オリンピック開会式の日、南オセチア自治州をめぐるグルジアとロシアの戦闘のニュース。多くの避難民の姿、窮状に戦争のおろかしさを思います。9条を世界平和に。

## ◆こういうミニコミが果たす役割

大阪府高槻市 三上弘志  
移ろいやすい「民意」はマスコミのミスマインドの所為もあるのでしょうか、潮目とかトレンドをつくるものは、何なんでしょう。何はともあれ、こういうミニコミが果たす役割も一層大切なのだと思います。ご奮闘下さい。



◆読むのが楽しみ

東京都板橋区 藤本智恵子  
充実した内容で、とても勉強になり、また、楽しみでもあります。

◆心に喝を入れられて

岡山県倉敷市 守屋昭・守屋道子  
貴誌を読んで心に喝を入れられ、元気をもらっています。ありがとうございます。少しでも世の中が(マシ)になるよう、諦めず、自分のできることを積み重ねていこうと思います。

◆「無言館」ツアーに参加したい

高知県南国市 盛岡侑子  
いつも励まされながら読んでいます。来年計画中の「無言館」ツアーにも出来るかぎり参加したいと思っています。

◆「9条世界会議」の熱気に触れて

富山県富山市 小関旦子  
「9条世界会議」の参加者の報告会に参加しました。会議の熱気が聴く者にも伝わってきました。市民運動のやり方も多様で昔とは大違い。だから大勢の人の目を引きつけることができると感心しました。

◆党派を超えた新たな結合を

愛知県名古屋市 石黒廣昭  
労働組合運動の再生、党派を超えた形の共同行動の実現なしには、世の中は変わらないと思います。新たな結合のためにがんばりましょう。(胸底の忿りに耐えて汗垂るる)

◆いまの日本は情けない

兵庫県明石市 植木悦子  
戦争を知っている世代の人間として、いまの日本を情けなく思っています。

◆80歳の私の大きな課題

奈良県香芝市 島田雅夫  
9月で80歳になりましたが、天皇の戦争責任の追及、憲法改悪阻止という大きな課題が残っています。

◆読みごたえのある貴誌に満足

東京都西東京市 粕谷 力  
71歳の敬老会員です。『市民の意見』は毎号読みごたえのある充実した内容に満足しています。(一寸かたいところもあり)

◆地球の悲鳴が聞こえるよう

神奈川県逗子市 大井鞠子  
毎号、充実のニュースをありがとうございます。世の中の動き、相次ぐ災害、地球の悲鳴のようでこわいですね。

◆自分にできることを少しずつでも

神奈川県横浜市 堀切文子  
いつも楽しみに拝読しています。勉強不足の私に色々な話題を提供して下さり、感謝しています。自分にできることを少しずつやっていきたいと思っています。

◆自分らだけの「幸福実現」に抗して

埼玉県さいたま市 匿名希望  
小泉政権下で加速した様々な傾向により、私たちもここさいたま市で農業・造園業一族の地場産業と公明党などとのつながりを知ったせいで、攻撃、いやがらせの対象にされました。でも、負けません。



2008.10.5.11AM\*

## 〈当たり前前〉の深さ

エンピツが好きだ。つぎのしごとに取りかかる幕間にエンピツを削る。カッターナイフや小刀で角を削いでいく。気持ちにゆとりがないときには、削りすぎたり、芯を尖らせようとして折ってしまう。エンピツ削りは、こころのありようを表わす。エンピツ削り器には任せられない。エンピツにも「賞味期限」があるようで、年月を経た製品は、黒芯の乾燥がすすむせい、削っていて折れやすい。

事典を調べると、エンピツの軸木にはシダー材を使用とあるが、日本製とドイツやスイス製では、削り心地がちがう。国産はサクッと柔らかいが、欧州製には粘りがありやや堅い。木材の色も、国産が赤みを帯びているのに対し、欧州モノは白っぽい。エンピツの祖先は、古代のギリシア、ローマにまで遡れ、エンピツが、軸木で黒芯を固定した現在のスタイルになるのは、19世紀末から20世紀にかけてだそう。

国産と外国産の品質をたやすく比較できないのは、〈書きやすさ〉〈削りやすさ〉の基準そのものを、ひとびとが長い年月をかけてはぐくんできたからだ。多くの著者や

編集者がそうであるように、わたしも2Bの愛用者だが、同じ2Bでも、国産のほうが柔らかい気がする。その地域ならではの〈書きやすさ〉〈削りやすさ〉があるのだろう。

エンピツを削りながら考える。鉱物質と樹木との絶妙な組み合わせからできているエンピツは、尖った中心点しか使わない。輪切りにした面積で言えば、9割以上を捨てている勘定になる。紙に触れる先端がもたらず筆触を、周囲の芯と木が支えている。誰も、捨てている9割を無駄とは言わないだろう。

関川夏央さんの本だったか、訪問者が北朝鮮の工事現場から1本のクギを拾ってくる話があった。1本のクギは、資源がどのくらい枯渇しているのか、生産現場の士気はどうかなど、さまざまな〈情報〉をもたらしにくれるらしい。

ありふれたエンピツもクギも、入手不能になればどれほど困るだろう。同じようにありふれてはいるが、想像力を掻きたてる品物にゼムクリップがある。財布の小銭のように、ゼムクリップもまた、机の上で増えるときは急に集まり、減るときはあつと

いう間になくなる。ゼムクリップひとつは、だれの所有物なのかはつきりしない。どこからかやってきて去っていく。生き物のように世間を渡り歩いていく。

金属クリップの歴史も古く、東ローマ帝国に淵源をもち、ひとつずつ手作りの貴重品だったので、皇帝や上流階級に属する人間しか使えなかった、とウィキペディアは記す。文書が、統治の道具だったせいもあるだろう。「Q」の字に似たゼムクリップが世に出現するのは、エンピツと同じ、19世紀末から20世紀にかけてだ。文書を綴じるゼムクリップにも、金属との接触の歴史が潜んでいる。

ふと考える。世界でいくつの国の国民が、自国産のエンピツでモノを書いているのだろう。書きやすいエンピツをつくるには、いくつもの条件が必要はずだ。自国産のエンピツでモノが書けるのは、途方もなくしあわせなのではないだろうか。書き味は、文字の形態や湿度や気候などが複合された結果だからだ。〈当たり前前〉は、けっして当たり前ではないのだ。ではクギやゼムクリップは、はたして国産なのだろうか。

(すずき・ひとし、グラフィックデザイナー、題字デザイナーも筆者)

## 小田実さんのことなど

吉川 勇一

■10月4日、岩波書店などの主催で「小田実没後一年記念講演会 小田実の文学」が東京・神田で開催され、約400名参加の盛会でした。発言はドナルド・キーン、鶴見俊輔、澤地久枝、夫人の玄順恵さんの四人。いずれもいとお話でしたが、鶴見さんはその最後のところで、「今春の九条の会主催の会では、小田実をジョン・万次郎と並んで、日本を世界に向けて開いた稀有な人物という話をした。今回はその文学について語った。あと一つ、組織者としての小田実という話をしたい。その三つが揃えば、自分の小田実論は一応完結する」と結びました。

それで、早速、その三つ目の講演会はずひ市民の意見30の会・東京の主催で開催させてほしいと申し込み、快諾をいただきました。日程は未定ですが、毎年、鶴見さんは樺美智子さんの命日、6月15日に上京され、国会南通用門への献花などの行事に参加されているので、その前後か、あるいは7月末の小田さんの「三回忌」の前後になりそうです。ご期待ください。

■その小田さんの生前の活動を記録したドキュメンタリー『小田実 遺す言葉』（NHK放映）は感動的なものでしたが、これ

を作成した本会会員の坂元良江さんが、この作品で放送批評懇談会の「ギャラクシー選奨」と「ATP優秀番組賞」を受賞されました。お祝い申し上げます。ギャラクシーのほうは1年間すべての番組中14番組以内に選ばれ、ATPのほうは1年間すべてのドキュメンタリー番組中9番組以内選ばれたことになるそうで、グランプリは「アンジェイ・ワイダ」の作品、小田さんの番組は2番目に位置していたそうです。この番組の視聴をご希望の方には、往復送料だけでDVDをお貸しできます。事務局へお申し込みください。

■先月の本欄でお知らせした無言館ツアーについては、事務局の佐橋さんと会員の吉岡さんが先乗り調査で現地まで行って調べてくれました。詳細は20ページのご案内をご覧ください。

■友誼団体である「市民の意見30・関西」(昨年まで、代表〓小田実)は、夏以来、内部事情から活動休止になっており、心配していたのですが、10月12日、大阪で臨時総会が開かれ、複数運営委員会を作って再開されることになりました。東京の本会からも事務局の吉田和雄さんが参加しました。当面は「福祉」政策案の確定や、「市民〓議員立法推進実現本部」などと協同して、「市民安全法」の市民案や「災害救助庁」案の具体化などの活動を進めるとのことです。成功を期待しています。

■本会のホームページが再開されました。アドレスは本誌表紙にあります。

■本誌の編集作業が人手不足です。仕事はいろいろあります。ご協力くださる方を鶴首しております。

■年賀状用意の時期です。出される方は、その中で5月3日の意見広告運動への協力をよびかけてくださいませんか。(11/11記)

(よしかわ・ゆういち、事務局)

## 事務局の会員情報係より

6月から会員情報のデータベースを吉川から引継いで、桜井と森安が担当しています。ご支援をよろしく願います。

## 【会費の振込みについて】

毎号の本誌『市民の意見』発送の封筒には、会費が切れている方だけでなく、すべての方に払込取扱票(郵便振込票)を同封しています。これが同封されているので、会費が切れているのではと誤解される方がありますが、振込み済みの会費の有効期限は、毎号の封筒の宛名シールのお名前の右下に、(→2009/10)のように表記しています。これをご確認ください。

また、有効期限が切れている方には「会費送付のお願い」の手紙を同封しています。もし会費期限について間違いや不明な点がありましたら、FAXか電話(できるだけFAX)で事務局へお問い合わせください。

(桜井記)

# 編集後記

◆田母神前航空幕僚長の処分を協議する政府・与党の会議の席上、彼の歴史観は間違っていない、との発言があいついだそう。自衛隊内でも、彼の発言を支持する勢力が公然的に広がっていることが明らかになった。いまや、軍事クーデタの悪夢さえにわかになりアリテイを帯びてきた。

◆本号では隣国との歴史観共有化の試みを作っても、利用されることが少ない現実があるようだ。それ以前に、多くの高校生が、近現代史をろくに学ぶことがないまま卒業しているという問題がある。せめて、大学入試でもっと近現代史の出題を増やすことはできないのか。関係者の意見を聞きたい。

◆10月28日、法務省は新たに2人の死刑囚

市民の意見 30 の会 ・ 東京  
2008年9月～10月会計  
(単位：円)

1. 収入	
一般会費	257,500
協力会費	106,500
敬老会費	212,000
障害者会費	17,500
(会費小計)	593,500
カンパ	125,260
ニュース販売	4,000
バッジ等販売	800
集会入場料	8,500
普通預金利息	5,334
預かり金(*1)	105,500
立替金精算(*2)	253,490
収入計	1,091,050
2. 支出	
印刷費	23,625
発送費	158,785
通信費	26,403
事務用品費(*3)	163,680
消耗品費	1,899
編集費(*4)	14,140
会場費	4,000
交通費(*5)	71,770
事務所費	110,000
光熱費	7,782
手数料(*6)	30,525
諸会費(*7)	4,000
雑費	6,291
立替金(*8)	126,015
預り金精算(*9)	382,000
支出計	1,130,915
3. 収支	
前期からの繰越	9,448,473
次期への繰越	9,408,608
残高の内訳	
会基本会計	5,377,872
条約基金	176,715
F/I基金	2,715,820
預り金	1,138,201
計	9,408,608

注(\*1) 意見広告賛同金の預り金。(\*2) 意見広告事務所費、光熱費立替5～8月分精算。(\*3) パソコン¥80,913、FAX・コピー機¥71,307他。(\*4) ニュース原稿、懇談会講師謝礼金など。(\*5) スタッフ交通費補助9月分¥44,530、市民の意見30の会・関西出張交通費¥27,240。(\*6) 会計報告作成手数料¥30,000。振込手数料¥525。(\*7) 意見広告賛同金¥4,000。(\*8) 意見広告事務所費9～10月分¥110,000、その他光熱費等¥16,015。(\*9) 意見広告賛同金預り分精算。今期の会計には、ニュース110号の印刷費が含まれておりませんので次期の会計に繰り越します。

## 会計係より

今期の会計報告の中では、事務用品にめだった支出があります。というのも、会員

に死刑を執行した。その前日、私たちが執行停止を求める市民の共同声明を同省と首相官邸に送った翌日である。日本の死刑執行状況は世界でも異常と見られており、世界規模での死刑執行一時停止を呼びかけているEU議長国フランスは、今回の執行に「深い憂慮」を表明した。

◆朗報がひとつ。南米エクアドルでは9月末、外国軍の軍事基地を禁止する新憲法を可決した。その結果、あと1年ほどで同国内の米軍基地は撤廃される見通しだという。

▼編集委員 天野恵一、有馬保彦、井上澄夫、佐橋弥生、杉内蘭子、高橋武智、西田和子、古澤宣慶、細井明美(次号担当)、道場親信、本野義雄(本号担当)、諸橋泰樹、吉川勇一、吉田和雄

情報や会計などの管理、ホームページ作成等に使用するパソコンが容量不足となってきたので、新しいパソコンを9月に購入したためです。

やれやれこれで事務処理能力が大幅にアップ、と安堵したのもつかの間、今度はファックス・コピーの複合機が故障。これも以前より調子が悪かったのですが、スタッフの魔法の手でいただきました使い続けるも、とうとうダウン。意見広告のチラシ請求ファックスが押し寄せる直前のことです。こちらも大慌てで10月に購入した次第です。

これら新しい機械たちも、私たちと一緒に大いに活躍してくれることと期待しています(上口記)。